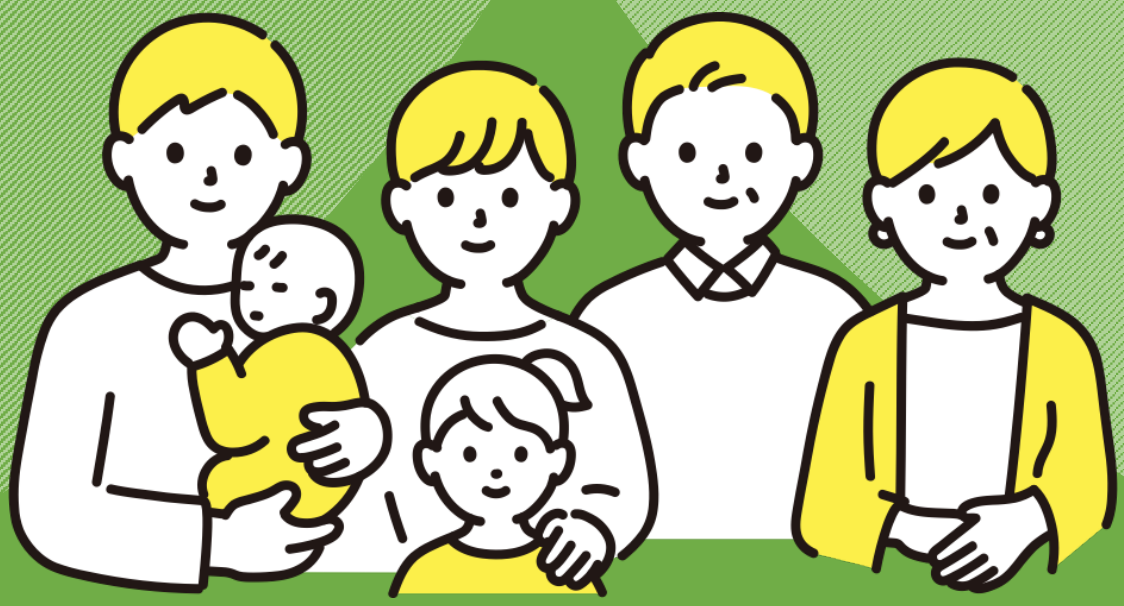
2024年度
助成事業
実施報告

ご寄付を寄せて頂いたみなさんの思いが
各地の助成団体の活動となって
ひょうごのみなさんのもとへ届きました。



公益財団法人
ひょうごコミュニティ財団

【はじめに】

公益財団法人ひょうごコミュニティ財団は、2024 年度も多くの個人や団体の皆さまからご支援をいただいて助成事業を行うことができました。この冊子はその全体をまとめたものです。

2024 年度の助成プログラムは、故・有園博子様のご遺贈による『有園博子基金』、宗教法人真如苑様のご支援による『真如苑・ひょうご多文化共生基金』、 中村毅一郎・婦美乃基金、ASAHI-MITSUHASHI 基金、岸鶴夫基金、光子基金、實吉一夫基金、匿名基金という複数の基金からなる『ひょうご市民活動応援基金』の 3 種類となっています。

どれも地域社会の中で貴重で大切な活動ばかりです。ぜひご一読いただければ幸いです。

【目　次】

◆はじめに 1

◆目次 1

◆有園博子基金

基金の説明 3

第 6 期（2024 年度）有園博子基金 助成団体一覧 4

伴走支援の説明 4

【活動応援コース】 （特活）性暴力被害者支援センター・ひょうご 5

（一社）TICC 6

忘れない 4.25 追悼のあかり実行委員会 7

【組織基盤強化コース】 （特活）こどもサポートステーション・たねとしずく 8

（特活）フェミニストカウンセリング神戸....9

（一社）神戸ダルクヴィレッジ 10

CocoKara ルームそら 11

伴走支援の成果 12

◆真如苑・ひょうご多文化共生基金

基金の説明 13

第 8 期（2024 年度）真如苑・ひょうご多文化共生基金 助成団体一覧 14

【阪神神戸地域】 兵庫県在日外国人教育研究協議会 15

CoCoCara 芦屋 16

（特活）インターナショクナル 17

【阪神神戸外地域】 にこにこ日本語教室 18

（特活）多文化センターまんまるあかし 19

なかよし「加古川マダン」開催実行委員会 20

（特活）りとるめいと 21

◆新ひょうご・みんなで支え合い基金

基金の説明 22

2024 年度 新ひょうご・みんなで支え合い基金 助成団体一覧 23

《野田子ども・若者応援基金、田中成治基金、中村毅一郎・婦美乃基金、ASAHI-MITSUHASHI 基金》

【若者活動応援】

（基本コース） （特活）夢ノ森伴走者 CUE 24

【子ども分野】

（基本コース） （特活）神戸アイフレンド 25

（特活）みらぽて 26

（特活）スマイルポケット 28

Farm to Children 29

（特活）障害者地域生活応援団あかね 30

サークルささるんと 31

心をつなぐ応援団「西風（いりかじ）の宝」 32

播州ストリートダンス協会 33

人心地 34

（発展コース） （特活）HIKIDASHI 35

（特活）ゆるり家 36

兵庫フリースクール等連絡協議会 37

りすぺくと・ゆう 38

（特活）ふぉーらいふ 39

（特活）神戸ロボットクラブ 40

《岸鶴夫基金、中村毅一郎・婦美乃基金、實吉一夫基金、匿名基金》

【その他分野】

（基本コース） （特活）アイリス 41

tree donut 42

（特活）あんだんて 43

がん哲学カフェ＠加古川 44

ひめじ西里山サポート倶楽部 45

ゆずりは明石 46

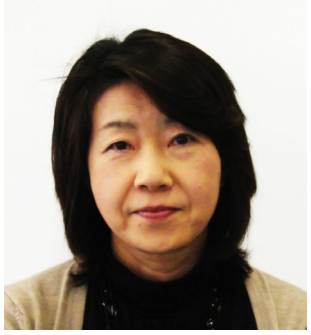
（発展コース） 神戸レインボーフェスタ実行委員会 48

（特活）兵庫県障害者タンデムサイクリング協会 49

（特活）あしたあさって 50

有園博子基金

1. この基金の趣旨



本基金は 2017 年 12 月に逝去された故有園博子さんのご遺贈により設立された基金です。有園博子さんは臨床心理士、精神保健福祉士として、DV や性暴力、犯罪の被害者、虐待された子ども、事故の被害者など、常に深い傷を負った人や大変な境遇の人たちの支援を続けてこられました。また、兵庫教育大学で教鞭を執られ、研究と後進の育成にも当たってこられたほか、各地の自治体の男女共同参画施策にもアドバイザーとして関わられ、自治体の政策の後押しにも尽力されました。

本基金は有園博子さんの遺言に従い、兵庫県内において、①DV 被害者、②虐待された子ども、③性暴力の被害者、④JR 福知山線脱線事故のご遺族、の 4 分野に対する支援もしくは支援のための研究を行う団体・個人を支援し、もって被害当事者を支えるセーフティネットがより厚くなり、人が人として生きやすい社会をつくることを目指します。

有園さんはまた、現場での支援活動と研究・教育の連携や人材育成を重視され、支援活動の質の向上と支援組織がより充実・発展することを願われていました。そのことから、当基金による支援も、1）多くの機関のまたは分野を超えた連携、2）支援活動そのものと並んで、支援に当たる団体の組織基盤強化や人材育成といった側面、を重視してまいります。

当基金が応援させていただくことで、有園博子さんの思いを受け継ぎ、被害者支援のさらなる充実が実現することを願っております。

2. 対象となる団体、対象となる事業

・兵庫県内において、下記の活動（事業）または研究を実施する団体または個人
・下の 4 分野における活動・研究のうち、下記の 2 種類が助成対象。
①この分野における小規模な活動・研究、②支援団体（NPO 等）の組織基盤強化に資する活動

〈4 分野〉

1. DV 被害者を支援する活動
2. 虐待された子どもを支援する活動
3. 性暴力の被害者を支援する活動
4. JR 福知山線脱線事故のご遺族を支援する活動。

3. 助成コース

1）活動応援コース

小規模な活動・事業に対する助成です、上記 4 分野における支援活動に加えて、団体や個人の行う新たな活動または既存の活動が成長していくための学習や研究も対象としました。

2）組織基盤強化コース

団体の長期的な発展・成長に資する「組織基盤強化」そのものを助成対象としました。

第 6 期（2024 年度） 有園博子基金 助成団体一覧

【活動応援コース】				
団体名	事業名	申請額	採否額	伴走支援
（特活）性暴力被害者支援センター・ひょうご	「性暴力を予防する性教育」を実施できる人材育成と啓発資材開発	尼崎市	200,000	○
（一社）TICC	専門職と虐待を受けた方の“その後”をつなぐ交流会事業	尼崎市	200,000	○
忘れない 4.25 追悼のあかり	わすれない 4.25 追悼のあかり	大阪府八尾市	200,000	
【組織基盤強化コース】				
団体名	事業名	申請額	採否額	伴走支援
（特活）こどもサポートステーション・たねとしずく	法人の運営基盤整備と支援者の研修とケア体制の整備	西宮市	1,000,000	○
（特活）フェミニストカウンセリング神戸	法人運営、事業推進のための基盤整備および、人材育成による基盤強化	神戸市中央区	282,000	○
（一社）神戸ダルク ヴィレッジ	子ども時代に虐待を受けた薬物依存症者の回復支援活動の基盤づくり事業	神戸市長田区	120,000	
CocoKara ルームそら	生きづらさを抱えた人々の身体とこころを「つなぐ」任意団体「Cocokara ルームそら」の法人格取得に向けての組織基盤構築プログラム	明石市	150,000 ※ご返金	
合　計			2,152,000 ※返金分を含む	

【伴走支援】

有園博子基金では、希望した団体に対して「伴走支援」という、資金面ではなく団体の活動等へ専門家による助言を約 1 年間に渡って寄り添いながら行うプログラムも形成しています。2024 年度助成団体では 4 団体からご希望がありました。

伴走支援については、12 ページの「伴走支援の成果」をご覧ください。

（特活）性暴力被害者支援センター・ひょうご

団体概要：性暴力被害にあった人によりよい支援を提供するとともに、誰もが安心して暮らすことのできる性暴力のない社会をつくることを目的に活動している。

事業名：『性暴力を予防する性教育』を実施できる人材育成と啓発資材開発
助成額：200,000 円

事業の概要

年々増加する当法人への性教育講演会開催申し込みに対応できる態勢づくりを目的として、性教育プログラム開発と、それを実施できる人材の育成を行いました。

これまで当法人では「自分のからだは自分のもの」というコンセプトは共有しつつ、性教育講演の都度、担当するスタッフがそれぞれ独自に主催者の希望に合わせ講演内容を準備していました。そのため講師の負担は大きく、担当できるスタッフが限られていることが問題でした。

そこで、これまでの性教育講演会の内容を精査し、当法人の統一された性教育プログラム「性暴力を予防する性教育」の啓発資材と授業運営マニュアルを作成し、その資材をベースにスタッフの誰でもが各学校の実情に合わせつつ同一品質のプログラムを提供できる態勢をつくりました。

事業の成果

生徒からは「プライベートゾーンについて知ることができた」「自分の思いを押し通してばかりではいけないと思った」「相手の気持ちを理解することの大切さを知った」「性暴力によって心が傷つくことがわかった」「性暴力が自分たちと同じ年代でも受けている人がいること、男性でも性暴力にあうことを知った」などの感想を得ることができました。

学校からは性教育についてしっかりと学習していない子どもたちにとって、大変わかりやすくて勉強になったとの意見を得ました。

授業を聞いていた保護者からは「性教育の授業が子どもと話すきっかけになった」「最近多いトラブルの実際を用いていたためわかりやすかった」との意見を得ました。

本事業により性教育資材と授業運営マニュアルを作成したことで、性教育に興味関心のある法人スタッフがゼロから準備する負担を軽減し、標準的な内容を子どもたちに届けることができるようになりました。

今後の課題

今回はもう１校講演希望がありましたが、５校を予算として計上していたため実施を断念しました。学校によっては講師謝金の捻出が難しい場合もあるようですが、「この授業は予算を獲得してでも実施したい」という機運をどう作るのかが課題です。今回実施した学校のなかにも、来年以降は予算を取って実施したいという声もあり期待がもてます。

今後、助成金等で（数は多くないものの）無料実施できる枠を確保し、実施校の口コミ効果で「性暴力を予防する性教育」を予算計上してでも実施する学校が増えていくよう関係機関に働きかけていきます。

今回作成したスライドは小学校高学年用のため、今後は小学校低学年用、幼児用、中学生用とバリエーションを増やしていきたいです。

この事業を通じて良かったことのエピソード

良かったことは、目標どおり「性暴力を予防する性教育」を完成し、新スタッフで子どもたちに届けられたことです。実施校からは良い評価をいただき自信になりました。なによりも子どもたちが熱心に授業に参加し、素直な反応を返してくれることがとても励みになりました。

副産物として良かったのは、時間も労力もかかる大変なプロジェクトをチームで遂行する過程で、メンバー間の理解とコミュニケーションが深まったことです。

「性暴力を予防する性教育プログラム」作成プロジェクトチームのメンバーはほぼ初顔合わせで、それぞれ違う職業での経験を背景に子どもたちに性についての正しい知識を届けたいと願っているメンバーです。そういうメンバーが協力し、知識や意見を出し合って化学反応させることでそれぞれの「子どもたちにどうしても伝えたいこと」が結晶し、子どもたちに伝わりやすい、誰でもが講師として自信をもって使える啓発資材と授業運営マニュアルができました。

寄付者へのメッセージ

性被害のニュースはあとをたちませんが、それでもまだ氷山の一角です。子どもへの SNS の浸透など社会の変化にともない子どもたちの安全を脅かす手口は思いもよらないものになっています。

「性暴力を予防する性教育プログラム」を全学校に届けて、子どもたちが被害者にも加害者にもならない社会を作るための種まきを続けていきたいと思います。

「オレンジリボンフェスタ 2024in あまがさき」
絵本展示と読み聞かせ

（一社）TICC

団体概要：こころのケガ（トラウマ）への意識を持ち、配慮やケアができる仲間作りをコミュニティに広げていく取り組みを目指して活動している。

事業名：専門職と虐待を受けた方の“その後”をつなぐ交流会事業
助成額：200,000 円

事業の概要

背景と目的：

子ども期に虐待や親・身近な大人による不適切なかかわりを経験した女性の生きづらさをめぐる課題がある。困難を解消することは簡単ではないが、「つながりの場」の存在を通して、羽を休めること、挑戦をすることなど、生きやすさを支える小さな一つの足場となることで、課題にアプローチすることを試みた。

活動の理念：

「ここいま」は、ここに今いる自分から始めよう、ここに今いる自分を見つめよう、ここに今いる自分を大切にしようという理念をもち、名付けたプロジェクトである。

活動の内容：

オムニバスの講演会形式で、心に関する専門家をお呼びした「情報共有の場」と、心理の専門家をファシリテーターに迎え、参加者が安心・安全な場で語ることのできる「お話の場」の 2 つの場づくりをした。いずれの場も、①情報とつながる、②自分とつながる、③人とつながる、の 3 つの視点を重視し、当事者を中心とした場所づくりを目指した。

事業の成果

情報共有の場では、トラウマやアディクションに関する知識、利用可能な制度、カウンセリング技法に関する内容を提供した。参加人数は回ごとにばらつきがあったが、全体を通して、専門的な知識を共有することについて参加者から肯定的な意見をいただいた。また、オンデマンド配信へのアクセスは非常に多く、このことは、情報を得るというニーズに寄与できたと考えられる。

お話の場では少人数グループで参加者同士の交流が生まれた。参加申し込み者から事前にいただいたトピックについてお話をすることだけではなく、その日の参加者の困りごとや気になることを話す場となった。とくに、「症状への対処法」、「現在抱えている困難」が主なトピックとなり、これらを語る中で「自身をいたわること」についての課題も生まれた。

今後の課題

情報共有の場については、広報についての課題があるため、今後はさらに関連団体にも働きかけを行う。また、参加者の関心に沿ったテーマの選定を行うために、アンケートなどを通して検討を行う。

お話の場については、参加者の属性や背景が異なっているため、共通の話題の設定をめぐる課題が浮かび上がった。そのため次年度は、お話の場でたびたび焦点となった「自身をいたわる」ことを大きなテーマとし、さまざまないたわりのワークショップを通して、「どのようないたわりが役に立つのか」を探求していくことを検討している。

この事業を通じて良かったことのエピソード

情報共有の場では、普段得ることの難しい専門的な情報を共有すること、そして専門家に質問ができることを目指していた。そのため、情報共有の場に高い評価をいただいたことは、一定の貢献につながったことを示すものだと考えられる。

また「自分の経験が他の人と比べてちっぽけだと思い込んでいたけれど、そうではないと気づけた」というご意見をいただいた。専門家の説明が症状や状態を客観的に伝えられたことで、このご意見をいただけたと考えている。

また、お話の場では「普段は話せない心の奥底にあることを話せた」というお声をいただいた。普段の生活で話しにくい過去の出来事を開示するのは容易ではなく、女性限定・匿名・カメラオフという環境だからこそ、参加者の方々に僅かながら貢献できたと考えられる。

寄付者へのメッセージ

この度は、本プロジェクトへのご支援をいただき、ありがとうございました。

情報共有の場は、専門家の知見を通じた場づくりの機会となりました。また、お話の場は参加者同士が自由に対話をする中で、さまざまな共感を実感する場となりました。いずれも、前向きな感想が寄せられており、助成金のご支援があったからこそ実現できた活動でした。

今後も、この場をさらに成長させていきたいと考えております。改めまして、温かいご支援をいただき心より御礼申し上げます。

わすれない 4.25 追悼のあかり 実行委員会

団体概要：2005 年 4 月 25 日に発生した JR 福知山線脱線事故の記憶を風化させないために、事故が発生した前日の 4 月 24 日の夜に命の追悼と鉄道の安全を祈る活動を行う。

事業名：わすれない　4.25 追悼のあかり
助成額：200,000 円

事業の概要

2005 年 4 月 25 日に発生した JR 福知山線脱線事故の記憶を伝え、少しでも風化させたくない、また、鉄道の安全と亡くなった命を追悼する目的で、事故が起こった前日に、事故現場にて遺族・関係者とともに、ローソクを灯し、静かに祈ります。

大切な家族を亡くした遺族が少しでも前を向いて歩んでいく機会にもなればいいと思っています。

ローソクのあかりと共に関係者だけで、ゆったりとした追悼の時間を挟んで、マスコミ各社にも広く開放し、鉄道事故の悲惨さと、二度と同じ事故を起こしてほしくないという遺族の想いを広く世間に発信します。

事業の成果

事故が起こった 4 月 25 日の前日 18 時より、JR 尼崎事故現場である「祈りの杜」にて、約 600 本のカップローソクを「2005.4.25 わすれない」の文字を象って配列。ローソクのあかりと共に鉄道の安全と亡くなった命の追悼を静かに実施します。

当日は、実行委員会のメンバー、遺族数人と JR 西日本の社員に加え、有識者・支援弁護士、他の鉄道事故等で家族を亡くしたご遺族、それにボランティアの力を借りて会場設営等の準備から開催後の片付けなどを行います。

ローソクの点灯前後にマスコミにも公開し、TV・新聞等で広く報道していただき、事故の風化防止に役立てています。

今後の課題

遺族の高齢化とともに、実行委員会の負担が増えています。他にこの事業を引き継いでくれる方がいないと長く続けることはできないと思います。

この事業を通じて良かったことのエピソード

このイベントを開催することで、はじめて事故現場に足を運ぶことができたというご遺族がいた。このイベントのおかげで、ここに来ることが出来た。

これから少し前向きな日々を送れそうな気がするという言葉が心にしみた。

加害企業の、JR 西日本と一緒に企画・運営に携わり、少しずつわだかまりが少なくなってきたような気がする。

寄付者へのメッセージ

4.25 追悼のあかりは、事故から 10 年目の 4 月 24 日から今年で 10 回目のあかりを灯してきました。

初年度こそ、数名の遺族とともに企画・準備等の作業をいたしましたが、2 年目以降は実質二名で開催してまいりました。回数を重ねる毎に、活動の意義を理解していただく方が増え JR 西日本も次第に準備の段取りや手伝いをしていただくようになりました。

事故から 20 年目を節目に 10 年間続けてきた追悼のあかりは今年で最後となります。遺族や、JR 関係者等から、来年以降も続けてほしいというお声を、予想以上に多く頂き、名残惜しい気持ちと少し申し訳ない気持ち、安どの想い、やってきてよかったという達成感、さまざまな感情が入り混じった感じです。

とにもかくにも、私たち二人だけでは、特に資金面で長く続けることは不可能だったと思います。有園先生には、生前からお世話になりっぱなしで、お亡くなりなった後も私たちの応援をしていただいているようで感謝しかありません。何年目だったか、追悼のあかりの後に、食事をご一緒させていただいたことが今でも鮮明に思い出します。

私たちはこれから、前を向いて、明るく人生を歩んでいきます。有園先生のご恩に報いるためにも、そうありたいと思っています。本当にありがとうございました。

（特活）こどもサポートステーション・たねとしずく

団体概要：困難な状況にあるこどもたちが、日々安心して暮らせ、こどもらしい成長発達を遂げられるよう、訪問型の家事支援や親子が安心して過ごせる居場所の運営等を行う。

事業名：法人の運営基盤整備と支援者の研修とケア体制の整備
助成額：1,000,000 円

事業の概要

大学のボランティアセンターへの登録、ボランティア募集サイトへの告知、また、合同ボランティア説明会に参加しました。新たなスタッフやボランティアが加わりました。

こどもの権利を理解し、行動指針にそった行動を取れるよう研修を継続的に行いました。また、支援を行うことで代理受傷を防ぐために、心理士によるスーパーバイズを毎月行いました。

活動が多岐にわたっていますが、受益者に重なりがあり、団体内での情報共有は不可欠になっています。キントーン・サイボウズを活用し、報告書を共有できるように整備しました。また、日頃から振り返りを行い、スタッフの支援力向上に努めました。

若手のスタッフを視察に同行する機会を設けました。当団体だけでは見えてこない活動の内容や支援の方法を知り、活動へのモチベーションを高めてくれました。

事業の成果

1年を通して、研修やスーパーバイズ、セーフガーディングに関する取り組みを実施したことで、各スタッフの支援力向上につながりました。情報共有基盤の整備（キントーン・サイボウズ導入）や定期的なミーティングを通じて、スタッフ間の情報伝達がスムーズになり、個々のスタッフがより効果的に協力しあえるようになりました。

スタッフの働きやすい環境が整い、組織内の雰囲気が良く、スタッフの長期的なモチベーションにつながっています。そのおかげで、スタッフの離職もなく安定して活動に取り組めています。

新規リーダーの育成や視察等への参加などが、学生スタッフや若手スタッフの意欲向上につながりました。活動への積極性も増し、次世代のリーダーとしての期待が高まりました。おかげで、2025 年度は若手スタッフを中心にして「ボランティア育成」チームを作ることができました。

今後の課題

〇見出した課題：

事業が拡大するにつれ、それに伴う事務作業や外部との調整事項が増えてきています。事業部以外の管理部の仕事が増えてきて、事業の効率化と新たな人員が必要になっています。この課題解決のために時間を捻出するむずかしさも課題の一つです。

〇それに対する今後の展開：

業務のプロセスを見直し、業務の再分配を確認。（事業部内で済ませられることは済ませる。チームごとに振り分けるなど）そのうえで、プロボノ・ボランティアの手を借りることも検討します。業務についての整理をする時間を定期的に設けたいと思います。

この事業を通じて良かったことのエピソード

今年度は、次世代のリーダー育成を意識した取り組みを行いました。特に、学生スタッフや若手スタッフが自信を持って支援現場に立てるよう、研修だけでなく、サイボウズなどのアプリを活用し、日々の振り返りの方法にも工夫を加えました。これにより、ミーティングの効率化が進みました。

また、日報を後から確認できるようになったことで、自分のシフト以外の時間帯の様子を知ることができるようになり、安心してシフトに入れるようになったと聞いています。さらに、研修や交流会にボランティアが参加することで、活動歴の長い若手スタッフがリーダーシップを発揮し、ボランティアとの調整にも積極的に取り組んでくれました。

組織的な取り組みではありませんでしたが、若手スタッフにミッションやビジョンがしっかりと浸透していることを実感することができました。

寄付者へのメッセージ

いつも応援いただき、ありがとうございます。活動が活発になってくると、年度初めに予定していた事業以外の活動も発生してきます。そんなときに、寄付金を活用させていただくことで柔軟に対応することができています。今後も応援のほど、よろしくお願いいたします。

たねとしずくライブラリー

週 3 日、こどもたちの居場所として開放しています。木のぬくもりと本に囲まれた安らいだ空間で、静かに談話したり、学習できるよう自習室も設置しています。2024 年度は延べ 1,631 名のこどもたちの利用がありました。

（特活）フェミニストカウンセリング神戸

団体概要：おもに女性に対して、女性の視点にたった女性のための相談であるフェミニストカウンセリングの手法を使い、女性への暴力防止活動及び被害者の支援活動等を行う。

事業名：事業推進のための基盤整備および、人材育成による基盤強化
助成額：282,000 円

事業の概要

経験の浅いスタッフへのスキルの提供と法人理念の継承、支援者のバーンアウトを防止することを目的とした。個人へのスーパーバイズ実施とともに、困難や学びを共有する場を設けた。

事業の成果

当法人は、女性としてのシスターフッドのつながりを体現する場としての法人であり、その体験を支援のなかで活かせるようなスタッフにより女性を支援する事業を展開している。今回の基金による事業を通じて、女性の声をどう受け止め、どう掬いあげ、どのような支援をするのかをスタッフそれぞれが考える時間を持つことができた。

また、スタッフ間のつながりを持つ機会を創出できたことで女性がつながることの意味を体験として理解できる場面も多くあったのではないかと思う。実際に、会話のなかでも今後のスタッフのキャリアや人生において本事業が活かされると確信できる。

ひいては法人内部の活動のみならず、支援などで関わった方ひとりひとりが、フェミニズムやフェミニストカウンセリングという視点や考え方を活かし、未だジェンダー不平等な社会の改善に向けた関りができる一助となっていくだろう。

今後の課題

見出した課題：

スタッフ全員が、女性支援をしたい気持ちや熱意をもっているが、学びの機会を自ら創出すること、周囲への働きかけが難しい様子。

背景には個別の事情とともに、スタッフそれぞれの家庭や地域における性別役割、金銭的・時間的自由の制限、自尊感情の低下など、ジェンダー不平等な社会とその意識や行動への影響もあると思われる。女性の人生における（専門的）職業に対する意識の醸成、困難を言語化して共有すること、などが課題だと感じた。

それに対する今後の展開：

支援スキル向上のためのサポートのみならず、女性の生き方を考える場としてスタッフ間で CR（意識覚醒グループ）などができればいい。組織の一人としてフェミニズムに関わるところから、組織の内外で自分らしいフェミニズムを生きられるようにと願っています。

この事業を通じて良かったことのエピソード

受益者からこの事業についてのコメントをフィードバックしてもらえたことで、事業実施した側も学びになった。

〈以下コメントの抜粋〉

①経験年数 5 年以下のスタッフへの個人 SV

・個別の課題についての具体的なアドバイスをもらえて理解が深まった
・自分自身の認知のあり方、癖、課題などを知ることができ、それが業務に影響していることが分かった
・ケースを多角的な視点で捉えられるようになった
・丁寧な見立てを通じて、安心感を得る経験が大切だと知った

②困難事例のスーパーバイズ

・いろいろな方法（手法）があると知った
・勇気をもらった
・事例の提出のしかたが参考になった
・見立て、複数の人の視点が役にたった。取り入れたい
・日常の困りごとだけでなく、トラウマやアタッチメントの視点も取り入れ勉強していきたい
・カウンセラーが何をどこまで支持するのか、重く慎重な課題だと感じた
・被害者が泣き寝入りしないような社会であるべきだと思う。もっと被害者支援が必要だと感じた

寄付者へのメッセージ

法人の基盤強化に様々な角度から取り組むことができ、とても感謝しています。本基金の事業をさせていただくにあたり、有園先生のことと、始めのキックオフミーティングでお姉様にお会いした 7 年前を時々思い出します。

第 1 期申請当時の思いとは異なり、現時点で法人を縮小する方針となり、基盤が強化されたとは言い難いものになってしまいました。しかし、何も取り組まずに同じ結果を迎えるのと、やれることはやった結果だと思えるのは大きな違いです。ここまで応援していただき、ありがとうございました。この経験をそれぞれが活かしていきたいと思います。

（一社）神戸ダルク　ヴィレッジ

団体概要：薬物・アルコール・ギャンブルなどの依存症問題で苦しむ家族・仲間・関係者の方々へ、包括的に回復及び社会復帰を支援する事業、薬物依存症に関する啓発事業を行う

事業名：子ども時代に虐待を受けた薬物依存症者の回復支援活動の基盤づくり事業
助成額：120,000 円

事業の概要

当団体神戸ダルクは、薬物依存症の男性用リハビリ施設です。私たちの依存症の根本的な部分に幼少期の虐待などの問題が大きく影響していると考えられますが、男性の回復支援の中でそのようなことが語られることはほとんどありません。そのような問題を抱えた依存症の方々がより良い回復が目指せるように、幼少期の虐待問題と依存症について考えてきました。

その中でまずはトラウマインフォームドケア（TIC）という考え方を支援側で取り入れていこうと実践を続けてくる中で、回復支援をする当事者スタッフ本人もトラウマを抱えているという状況がはっきりと見えてきました。

本年度は、そのような状況の中で、私たちが普段から行なっているグループミーティングに幼少期の辛かった思いなどを分かち合うミーティングを当時の年齢別に区切って話せる範囲で行いました。先輩であるファシリテーターがその想いを語ることによって、それぞれのメンバーにも安心して話せる空間が作られ比較的自己理解が進む効果が得られました。今後はその流れに沿って、通常のグループミーティングにも的確なテーマを設けて、公認心理師や精神保健福祉士がファシリテーターとして入るワークを展開していきます。

事業の成果

前年度行ってきた同事業では、トラウマインフォームドケアを実践するために、ワークブックを用いて、スタッフを対象にワークを行ってきて、それなりの効果が得られたが、その中で自分から当事者スタッフを志願するものの多くが「見捨てられ不安」や「人の役に立ちたい」という気持ちが強いものが多く、その反面、依存症当事者であることも含めて、虐待などの当事者であることも多く見られた。当事者スタッフ自体が、トラウマサバイバーが大半であることや、本年度の事業は、予算も大きく削減されたこともあり、グループミーティングを中心に開催され、内容的にはカテゴリーをある程度明確にしてのグループミーティングが行われた。

その結果、皆が自分のことをぼんやりとではなくて、その登記その時の状況や気持ちを割と明確に話すことが出来て、またファシリテーターが先に自身の幼少期の話したくない部分を話すことで安心感を持ったグループができ、次年度ももう少し明確にグループワークを行うための基盤ができた。

今後の課題

そもそもこの事業の着想の部分で、アメリカの男子の依存症リハビリ施設で、ファシリテーターなどが自身の虐待などに目を向けて話をしていたことで新しいメンバーが無理なく安心して話すことが出来ていた環境を再現したことで、危険かと思われていた部分が安心に変わり、全体の回復の雰囲気も良くなった。

そのことから、今後のグループミーティングは、毎日行われているミーティングとは別に、カテゴリーをきめ、明確な時間軸での安全なグループワークを定期的に行って、その効果を認識しながら、スタッフの TIC の学びもブラッシュアップしていこうと考えています。

この事業を通じて良かったことのエピソード

数年継続して行ってきたことで、本当に見えてこなかった部分、そして私たちが未知なる領域への挑戦だったことから、うまくいかない部分から新たなテーマが出てきた部分などが非常に効果的に進めてこられたと思います。

また、コロナ禍で事業が、全く出来なかった部分に関しても柔軟に対応していただいたことで継続できた事業だと心から感謝しております。

また、本年度に関しては参加するメンバーが人の話に真剣に耳を傾け、自信を振り返る空間と時間を作れたことが今後の回復のプログラムにも良い影響をもたらし、今後もこの流れはブラッシュアップしながら継続していきたいと思っています。

寄付者へのメッセージ

本当に感謝しかありません。私たちは実際に有園博子先生にお会いしたことはございませんが、先生の想いを最初の応募の頃から感じながら事業を進めてきました。

依存症者は、世間では自業自得と思われ病気にかかっているという認識はほとんどありません。それ以上に幼少期に経験した様々な葛藤が結果として依存症者の孤独な生きづらさを形成していることは誰も知りません。その苦しい孤独な状態の方々が今も全国で、1人で苦しんでいます。そのような方々の回復の基盤になるような取り組みをさせていただいたことに深く感謝を申し上げます。

私のライフワークとして依存症が孤独な死んでしまう病気で亡くなるような取り組みをしていきます。

CocoKara ルームそら

団体概要：う生きづらさを抱えた子育て世帯や低所得世帯、「制度のはざま」で支援を必要とする方の「こころとからだをケアする拠点」として活動の基盤を広げている。

事業名：生きづらさを抱えた人々の身体とこころを「つなぐ」 任意団体「Cocokara ルームそら」の法人格取得に向けての組織基盤構築プログラム

助成額：150,000 円　※ご返金

寄付者へのメッセージ

今回の事業内容は、支援者育成の為の助成金をいただき学習・研修などを行うことに使わせていただく予定でしたが、参加していただいた方々の温かな寄付や学びたいという意欲が強く明石市の助成金のみで活動が行えました。

今年度は地域の事業所や一般市民との交流が増え、来年度の展望を考える一年でした。助成金に頼らず、自走するにはどうしたらいいかと考えながら日々、支援を行っていました。来年度は少しずつ、3 年目の総括として形になるよう引き続き活動を続けたいと思います。

戴いた助成金は無理に使用せず、そのまま返金させてください。私たちのような右も左もわからず、立ち上げたいと考えている若者はたくさんいます。

有園基金はあくまで活動のきっかけを私たちに与えてくださいました。

DV 被害者支援として、未来へつながる支援を CoCokara ルームそらは今後作り上げれればと思います。誰一人、取り残されない社会へ。3 年目になり新たなステップを作りたいと思います。

伴走支援の成果

2024 年度の有園博子基金では下記の 4 団体を対象に、団体の持っている課題を一緒に考えていくために専門家が約 1 年間に渡って寄り添いながら支援する「伴走支援プログラム」を行いました。

伴走した内容は、下記のように団体の持つ課題によってさまざまです。ひょうごコミュニティ財団では、このような資金面に留まらないご支援を行うことも大切だと考えています。

（特活）性暴力被害者支援センター・ひょうご

伴走支援の目的と内容

活動にかかわって間もないスタッフへの法人理念の継承、支援内容を見える化して共通認識をもつこと、バーンアウトの防止を目的とした。

個人へのスーパーバイズ実施とともに、困難や学びを共有する場を設けた。

伴走支援の成果

少人数・小規模資金で活動継続するためには「メンバーそれぞれが自律的に動く」ことが必要という認識を共有できた。

また団体運営の中で属人的になっていた部分を見える化し、ほかのメンバーに割り振ることで世代交代への道筋が見えてきた。

（特活）こどもサポートステーション・たねとしずく

伴走支援の目的と内容

企業寄付やそのほかの財源など、資金面で安定する方法についてアドバイスをいただきたく、相談支援を希望した。

伴走支援の成果

年に数回、事業拡大のために何に取り組めばいいのかを相談した。その結果、企業や行政などに事業の必要性を訴求するためにも、事業の成果を客観的に評価できる数値や調査結果などを残すようにし始めた。

（一社）TICC

伴走支援の目的と内容

「専門職と虐待を受けた方の“その後”をつなぐ交流会事業」を運営する母体となる法人自体の運営や今後の発展について伴走支援を受けた。

事業を展開する中で、法人として何が強みで、どのようなことを今後展開したいのかについてコンサルテーションを受けた。

伴走支援の成果

本事業は法人事業の一つとして伴走支援の一部として議論をされ、その必要性や意義が話し合われた。

当事者と専門職、その他、一般市民を巻き込んだ組織として生まれ変わり、皆で支えていく体制整備の必要性が明らかになった。

（特活）フェミニストカウンセリング神戸

伴走支援の目的と内容

法人が弱体化している中で、事業をどのように継続するかを検討する場とアドバイスをいただいた。

伴走支援の成果

2026 年度以降の委託等の事業の方向性を見出すことができた。

課題としては、①行政のニーズと社会のニーズのずれによる、受託者としての精神的負担、②家父長制を元にした男性社会的な業務の評価軸とは別の軸を持った組織運営の必要性。

それに対する今後の展開としては、法人の事業を見直し、団体としてよりラディカルな方向性を指向していく可能性が考えられる。

真如苑・ひょうご多文化共生基金

1. この基金の趣旨

本基金は、多文化共生や外国人支援の取り組み、とりわけ貧困や暴力、差別に苦しむ人々への支援に資する取り組みを優先的に応援します。

日本人の貧困問題、とりわけ「子どもの貧困」については社会全般の認識が進みつつありますが、外国人に対しては人々の意識の面でも公的制度の面でも大きく取り残されています。

この 10 年ほど外国人労働者の受け入れが大きく拡大しており、コロナ禍を経ても日本で働く外国人労働者数は過去最高を更新しています。外国人技能実習生制度も政府において見直しが進んでいますが、社会全体として共生への取り組みはまだまだ十分ではありません。今後日本社会において多文化・多民族の共生はますます重要な課題になっていくのは間違いなく、その中で地域の市民による助け合いの活動（NPO/NGO 等の市民活動）もいっそう重要性を増していくと思われます。

こういった認識のもと、本基金では、兵庫県内で多文化共生・外国人の支援の活動を行う NPO 等に資金助成を行い、本趣旨にかなう活動の充実・拡大と、活動する団体の発展及び相互のネットワーク・連携強化を図ります。

2. 対象となる団体、対象となる事業

兵庫県内で活動する団体で、多文化共生や外国人支援の取り組み、とりわけ貧困や暴力、差別に苦しむ人々への支援に資する取り組みなどに助成しました。

3. 助成コース、対象期間

「単年度助成コース」　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日
「2 年継続助成コース」　2024 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

◆本助成は「宗教法人真如苑」さまのご支援で行いました

宗教法人真如苑さま コメント

真如苑では、2006 年より東京都立川市を含む多摩地域において、市民活動を支援する「多摩地域市民活動公募助成」事業を開始し、地域社会の発展に寄与する多様な取り組みを応援してまいりました。その後も、社会の要請に応じて、子ども・若者支援や防災分野など、地域に根ざした助成活動を継続しています。

2016 年には「ひょうごコミュニティ財団」と協働し、「真如苑・ひょうご子ども応援基金」を創設。3 年間の活動を経て、2019 年からは“多文化共生・外国人支援”をテーマに、「真如苑・ひょうご多文化共生基金」へと継続しています。

この基金では、文化や言語、背景の違いを越えて支援を必要とする方々に寄り添い、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりを願っています。外国人の方々が直面する困難に向き合い、信徒の浄財に込められた思いを大切に、課題に取り組む団体の活動を支えるお手伝いを続けています。

第 8 期（2024 年度） 真如苑・ひょうご多文化共生基金 助成団体一覧

地域	団体名	事業名	所在地	採択額
阪神神戸	兵庫県在日外国人教育研究協議会	在日外国人教育の研究・情報発信と相談事業 ～地域と学校を結ぶ包括的な支援のために～	神戸市中央区	300,000
	CoCoCara芦屋	日本語支援教室	芦屋市	20,000
	（特活）インターナショクナル	ワールド食育プログラム	神戸市灘区	200,000
阪神神戸外	にこにこ日本語教室	①にこにこポルトガル語教室、 ②にこにこ日本語教室、地域との交流活動	加古川市	200,000
	（特活）多文化センターまんまるあかし	みらいのきょうしつ うおずみきょうしつ　の新設	明石市	200,000
	なかよし「加古川マダン」開催実行委員会	第22回なかよし「加古川マダン」	加古川市	180,000
	（特活）りとるめいと	外国籍の親子支援	養父市	200,000
合　計				1,300,000

※「CoCoCara 芦屋」と「（特活）多文化センターまんまるあかし」は 2 年継続助成コースとして採択。

真如苑について

真如苑は、1936 年に開祖・伊藤真乗と妻・友司（霊祖・摂受心院）によって始まった宗教法人です。不動明王像との出会いを契機に、二人は心を定め、恵まれた生活から一転して宗教専従の道へと進みました。その志は、苑主・真聰に受け継がれ、国内外へ教えを広げるとともに、社会貢献活動にも力を注ぎ、現在では世界に約 100 万人の信徒と約 150 カ所の施設を有しています。

真如苑では、国や世代、性別、宗教的背景を問わず、さまざまな人々が日常生活を修行の場とし、融和の精神と利他の実践を大切にしながら精進しています。宗教活動と社会貢献は一体であり、設立した財団や各種助成事業も、立教の理念に基づいて進められています。

これからも、一人ひとりの救いを祈りながら、地域社会の安心と希望の未来のために、支援の輪を広げてまいります。

真如苑公式サイト　https://www.shinnyo-en.or.jp/

真如苑社会貢献活動サイト　https://www.shinnyo-en.or.jp/activities/

兵庫県在日外国人教育研究協議会

団体概要：真に国際的に開かれた多文化共生社会になるよう、保育所・幼稚園・学校での在日外国人教育と多文化共生教育を推進するネットワーク作りをめざして歩んでいる。

事業名：在日外国人教育の研究・情報発信と相談事業
～地域と学校を結ぶ包括的な支援のために～
助成額：300,000 円

事業の概要

国籍も言語も多様な来日する外国につながる子どもたち、とりわけ日本語指導が必要な子どもたちは急増していますが、学力や進路の保証は十分なされていません。

兵庫県在日外国人教育研究協議会（兵庫県外教）は保育士・教員で構成し、学校や地域、諸団体と連携する団体という強みを生かし、子どもや保護者、支援者の相談に対応するとともに研究集会や子どもにかかわる事業を長年行ってきました。子どもたちの名前、ルーツが尊重され、自己肯定感をもち、夢や希望をもって学び、社会的自立を果たせるような状況を学校や地域で作り出すための情報発信と研究協議を実践しています。

このたびの事業では、研究集会の開催と在日外国人教育に必要なノウハウや多くの情報を教職員、支援者に発信し、ネットワークづくりを目的に、兵庫県外教のさまざまな研究協議や相談事業を運営し、そこから得た在日外国人教育に必要な情報を掲載する情報誌『ともに…』を編集・発行し、個人会員・団体会員・関係機関に発送するとともに、必要な情報をホームページなどで提供しました。

事業の成果

兵庫県外教は年間をとおして 6 月の総会（60 名参加）、2 月の研究集会（120 名参加）などの多くの事業を行い、直面するテーマについて講演、実践報告、協議などを行い、在日外国人教育を推進しています。

とりわけ、情報誌『ともに…』を年 4 回発行し、会員や関係機関・団体に送付し、県内外の外国人教育の実践や情報を共有、発信し、ネットワークを広げました（送付先は 300）。また 6 月と 11 月には、さまざまな事業の案内を県内すべての学校宛、教育関係にも送っています。

「兵庫県在日外国人高校生交流会」、「全国在日外国人生徒交流会」、「ちがうことこそすばらしい！子ども作文コンクール」、「WAIWAI 子ども交流会」などの子どもにかかわる事業から、子どもの声を届け、子どもたちには「居場所」提供、また教員や支援者には、子ども理解と研修の場として活用いただいています。

兵庫県外教は、教員や支援者、外国人当事者がつながり、課題解決のための情報共有や教育相談のためのハブ的な存在として貢献しています。

今後の課題

兵庫県の外国につながる子どもたちは今後ますます増加することが予想されますが、保育園・学校の多忙化は解決されず、人権教育や外国人教育の共有・推進は、十分に進んでいません。本名や民族性、在留資格の把握や背景への理解を推進し、学校と地域が連携すること、中でも日本語指導が必要な子どもたちの高校入学、高校での支援と進路指導のあり方は大きな課題です。

多文化共生サポーターの母語による支援はありますが、学校内での「特別の教育課程」による日本語の授業など日本語の学びができる自治体や学校は限定的で、子どもたちのアイデンティティ確立に必要な母語・母文化の尊重や進路保障は、今後の課題となっています。

兵庫県外教は、担い手と活動資金の不足という課題を抱えていますが、情報発信の工夫を図り、事業の継続と発展が必要だと考えています。

この事業を通じて良かったことのエピソード

まず資金の枯渇に直面し、あと何年活動が続けられるだろうと危機感を抱いていましたので、2024 年度の助成金をいただいたことで、2024 年度の事業が滞りなく実施できたことに感謝しています。

次に、申請前の説明会、キックオフミーティング、交流会など、ひょうごコミュニティ財団のさまざまな企画により、多くの団体との交流ができたことは、私たちの活動の励みになったと同時に、事業や広報を継続、発展させるための大きなヒントを得ることができました。ありがとうございます。

さらに、選考委員会でご質問をいただいたことは、30 年にわたる活動を再認識、再検討する機会になりました。現職と退職教員による当団体の事業は、今後もますます必要とされていますので、事業の充実と、どのように持続可能としていくかという課題に今後も役員・事務局を中心に協議したいと考えています。

寄付者へのメッセージ

多文化共生や外国人支援の取り組み、とりわけ貧困や暴力、差別に苦しむ人々への支援に資する取り組みを優先的に応援するという真如苑・ひょうご多文化共生基金の趣旨に、共感いたします。

私たち兵庫県外教はとくに子どもたちが学校や地域の学びやくらしに大きな困難を抱えている現状をなんとか解決するべく、情報発信や相談事業で学校と地域を結び、包括的な支援につなげたいと活動しています。

真如苑さまから経済的な支援のみならず、私たちの活動をご理解いただけたことが大きな支えになりました。深く感謝いたします。

CoCoCara 芦屋

団体概要：主に西宮・芦屋地域に居住する外国にルーツを持つ大人への日本語学習支援を軸に、地域に暮らす住民同士が認め合い・支え合う社会作りに取組む。

事業名：日本語支援教室
助成額：20,000 円
〈2024 年度、2025 年度の継続助成コース〉

事業の概要

目的）芦屋および近隣に居住する外国にルーツを持つ大人向け日本語支援教室を開催し、多文化共生社会の醸成に寄与するとともに、「居場所」の役割を果たす。

・入会希望の学習者さんに詳しく学習目的をヒアリング：日本で何がしたいのか（例：就職）、そのために何ができるようになりたいのかをヒアリングします。
・日本語能力に合ったテキストを選定しペアで学習：目標達成のためにペアを組むボランティア会員がマンツーマンで日本語学習を支援。必要に応じて参加している会員が協力してサポートをします。
・コミュニケーションの場を提供：教室に来ることで、ボランティア会員や他の学習者とも和やかにコミュニケーションがとれ、日本における「居場所」の役割を果たしています。
・教室の運営：教室開催部屋の確実な確保、学習者・ボランティアの募集、日本語指導方法の勉強会の実施、他団体主催の講座・講習への参加支援などを実施します。

事業の成果

・上期は前年度並みの出席者があり、そのうち 2 名は日本の企業に就職が決まりました。
・昨年退会し、帰国した学習者さんが「日本と自国との架け橋」になると自国で活動しながら、日本語の学習をオンラインで継続中です。仕事で教室開催日時に参加できないボランティア会員が余暇時間にオンライン授業を担当しています。
・1 月からは学習者およびボランティア希望者の見学が増え、新規の入会者が増加しました。
・広報にチラシ、HP、インスタを活用中です。チラシは芦屋市内の公共施設や公民館等に配架させてもらっています。このため、問合せは HP からが大半を占めていますが、なかにはそのチラシや、直接リードあしやに掲示中のボランティア募集の和英併記の案内を見て、応募してくれる学習者さんもいます。
・地域の関係団体との打合せに参加することで関係者の認知度が上がってきていると感じています。

今後の課題

広報活動により、新たにボランティアとして入会してくださる方がいる一方で、転居や大学受験等で従来から参加されていた経験豊富な方が退会されたりします。

そのため週 2 回教室を開催するための「運営や管理」に協力してもらえる方がなかなか見つからず、運営上支障をきたすことが出てきました。

このような状況下、組織を運営する上での人手不足は否めませんが、あくまで「ボランティア活動」のため、教室外で必要となる運営に関わる活動を強制することは出来ないと考えています。

しかし、誰でもこの程度なら運営に関われると感じてもらえる仕組み作りが必要だと認識できました。

この事業を通じて良かったことのエピソード

・学習参加者が減少した 9 月に、米国人女性が日本語能力を向上させたいとリードあしやに来られ、週 1 回で学習を開始されました。学習で困ったことを聞けるし、教室の雰囲気が楽しいからと年末に学習を週 2 回に増やし、真面目に取り組んでいます。

　指導する側はその学習態度に刺激され気合が入り、好循環が生まれています。彼女を通して人と人との「つながり」を強く感じさせられました。

　更にその直後、半年毎に日本/米国を行き来するご夫妻の参加が決まるなど、次年度に向けて学習者さんやボランティアさんが増える予感を感じています。

・またケニアからの留学生の方が大学院の卒業直前の 9 月に目標とした日本企業に就職が決まり、学習者ご本人はもちろん、担当した月・土各教室のボランティアが喜びを分かち合えました。

寄付者へのメッセージ

私共は、教室を開く場所を提供するため公共施設の会議室の（抽選にはずれた時は他の施設の）予約をして部屋の確保に努めています。確保には対価を支払わねばならず、貴基金のご支援のおかげで資金不足に充当させていただいております。

活動が維持できて大変感謝致しております。ありがとうございます。

日本語支援　土曜教室の学習風景（2024 年 5 月 19 日）

（特活）インターナショクナル

団体概要：「食」という生活に身近な切り口から、ちがいをバリアではなくバリューに変えて、誰もが自分らしく多様性あふれる共生社会をつくる活動を行う。

事業名：ワールド食育プログラム
助成額：200,000 円

事業の概要

誰にとっても身近な「食」の視点から多文化共生について学ぶ「ワールド食育プログラム」を、小中学校への出前授業や市民講座などを通じて提供しています。

世界には３人に１人が何らかの理由で食べられない物がある、といわれています。宗教や信条、ライフスタイルや健康上など、その理由は様々です。本プログラムでは、世界の商品パッケージを使って、イスラム教のためのハラール・マークなどのピクトグラム探しやクイズなどのアクティビティを通じて、その背景にある多様な文化や暮らしを学びます。

また、食の成分を絵文字で表示する「フードピクト」や、食関連以外にも「ユニバーサルデザイン」などを紹介しながら、多文化共生社会に向けてどのような工夫があるか、各自がさらに何ができるかを考えます。

本年度は、出前授業に加えて、オンラインコンテンツの開発、ファシリテーターの確保に向けた勉強会の実施など、コンテンツをより充実させる活動を行いました。作成した動画の一部は出前授業の中で使用し、「フードピクト」の背景と貢献を開発者自身の声で届けることによって、プログラムに幅をもたせることができました。

事業の成果

出前授業をご依頼いただいた先生から、生徒の感想と共に以下のコメント（抜粋）をいただいています。

〈生徒の感想〉
- 食品表示もユニバーサルデザインのように考えられているのを知った。
- 世界の人によってアレルギーでないのに食べられない食品があることに驚いた。
- 宗教など食べてはいけないものを食べてしまうかもしれないから、絵文字による表示は大事。
- ベジタリアンや他の宗教についても、もっと知りたい。

〈先生のコメント〉
生徒達がたくさんのことが分かった、知れた、これからもっと知りたいという気持ちが表れ、表情からも見ることができました。今後も本日の学びを、生徒たちと共有する時間をもちたいと思っています。

今後の課題

本プログラムの広報と、依頼に応じた実施ができる体制づくりをバランスよく進めることが課題です。

提供内容に関しては高い評価をいただいていますが、ご依頼数はここ数年横ばいです。

積極的な広報を行いたいところですが、平日日中に学校訪問を確約できる柔軟なリソースとしてのファシリテーターを相当数確保することが難しく、慎重にバランスをとりながらの活動になっています。

この事業を通じて良かったことのエピソード

外国にルーツをもつひとりの生徒さんが、授業後に近づいてきて、「今までお母さんから豚肉を食べてはいけない、と言われていたが、今日初めて理由がわかってよかった」と、そっと話してくれました。

普段の授業や家庭でわざわざ取り上げられることのない自身のバックグラウンドに触れたことで、ある種の自己肯定感が生まれたのではないかと推察しています。

出前授業においてはいつも、子供たちから大きなパワーをもらいます。身近ながら今まで気が付かなかった多様な存在を、素直に喜んで受け入れている様子は、多文化共生に向けての一歩であると確信させてくれます。

当事者か非当事者かということではなく、自分も周りもそれぞれ多様な一人であり、大切な一人一人なのだ、ということをこのプログラムを通じて伝え続けたいと思っています。

寄付者へのメッセージ

活動にご支援いただきましてありがとうございます。教育現場へのプログラム提供という性質上、短期的な成果を目に見える形でお示ししにくい事業ではありますが、ご理解いただいたことに深く感謝申し上げます。

このプログラムを通して子どもたちが得た「気づき」が、将来の生き様や地域の在り様に何等か貢献していることを信じ、今後も尽力してまいります。

出前授業で投影中の作成した動画

にこにこ日本語教室

団体概要：20 年以上に渡り、兵庫県東播磨地域内に住む在日外国人の実情に応じた日本語学習支援、母語学習支援を行うことを通じて、その居場所づくりを行っている。

事業名：①にこにこポルトガル語教室、②にこにこ日本語教室、地域との交流活動
助成額：200,000 円

事業の概要

日本に住む外国にルーツを持つ子どもたちの生きにくさを知り、生活全般をサポートすることを目的に活動した。

子どもたちの学習支援を中心に、学校での懇談会での親のサポートや、入試情報の提供、在留資格変更の手助けなどを行った。また、地域での居場所づくりのために、他の団体の子どもたちとの交流活動を行った。

事業の成果

（1）にこにこポルトガル教室

・ポルトガル語の文章を書けるようになってきた。会話は以前からできている。ポルトガル語の語彙が増えた。

（2）にこにこ日本語教室

・昨年度に比べ、学習する習慣をつけることができ、学習時間が伸びてきた。
・1 年前にネパールから来た生徒が、外国人枠で加古川南高校に合格した。
・留学の在留資格のベトナム人高校生が、在留資格を変更して就職することができた。

（3）地域との交流活動

・交流は昨年度と同じ団体と行ったので、短い時間でもすぐに打ち解けることができた。いろんな国からきた仲間がいることを実感してくれた。

今後の課題

（1）にこにこポルトガル教室

・ポルトガル語を教えてくれていた先生が、体調を崩され 2025 年度からは　教室が開催できなくなった。

（2）にこにこ日本語教室

・読み書きが苦手で、学校の授業についていけていない子どもが多い。何とかしたいが、なかなか良い方法が確立できない。
・昨年度から参加してきたシリアの子どもたちとの意思疎通が難しい。中でも女子 2 人の学習意欲が低いのが気にかかる。
・学校へ行けない子どもが 2 人いる。学校と協力して登校を促したい。

（3）地域との交流活動

・ほかのグループの皆さんが演奏や演舞を見せてくれたので、にこにこ日本語教室でも仲間意識を高めるためにも何か取り組めたらと思った。

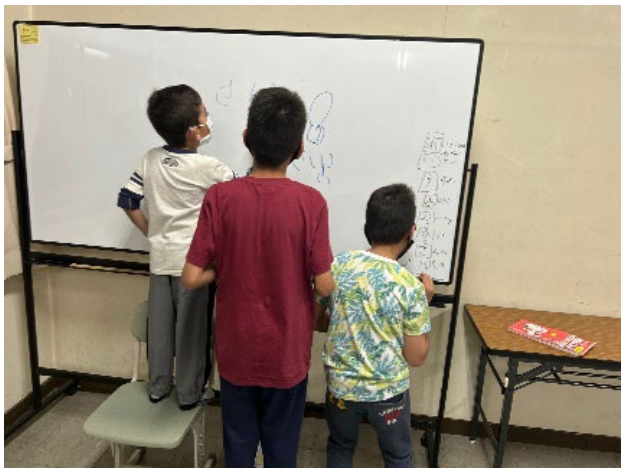
この事業を通じて良かったことのエピソード

北別府町内会では、人権課題に関する学習会や研修会については、無料で公民館の貸し出しをしてくれている。おかげで、会場費が大幅に節約できている。

寄付者へのメッセージ

昨年度同様、学習支援をしてくれる無料ボランティアが少なく、時給 1000 円で学生アルバイトを雇わないと、個別の学習支援ができない。

助成金をいただけて本当に助かっています。ありがとうございます！



【学習支援の様子】
4 か所に分かれて学習している。上の写真には写っていないが、教室の後ろでブラジル人の子どもたちが日本語の言葉集めをして遊んでいた

（特活）多文化センターまんまるあかし

団体概要：兵庫県明石市を拠点にして、在住外国人の方の支援や協働を中心に、国際理解、観光事業、通訳翻訳事業等の事業を行い、共に生きる社会の実現を目指す。

事業名：みらいのきょうしつ うおずみきょうしつ の新設
助成額：200,000 円
〈2024 年度、2025 年度の継続助成コース〉

事業の概要

当法人の所在地、明石市の東部にて教室を開催しており、また明石市教育委員会からの委託で市西部の小学校内で放課後日本語教室を開催している。

しかし明石市は東西に長く、明石市中部地域での外国にルーツを持つ子どもの支援教室は当法人が把握する限り開催されていない。子どもの行動範囲は狭く、また小学生に至っては、保護者の送迎無くしては継続して参加することが難しいため、自宅からの距離が遠ければ教室参加へのハードルが上がってしまう。

そこで市の中部地域である JR 魚住駅前の「魚住モール」内に店舗を構えるコープこうべの交流スペースを週に 1 回借用し、日本語・教科学習支援教室を新設し、活動を行っている。

事業の成果

海外で中学校の課程を終え、日本の高等学校への進学を希望する生徒に、受験科目である数学、英語、日本語の指導を実施。

コロナ禍では、母国での授業はリモートになっており、基礎学力が身に付いていないこともあり、日本語の支援と平行して、教科支援も行った。

2025 年 2 月 17 日に、兵庫県の「外国人生徒にかかわる特別枠選抜」の入学試験を受験し、無事合格することができた。

今後の課題

明石市の西部には外国にルーツを持つ子ども達が居るはずである。明石市教育委員会にお願いして地区の小中学校への教室の紹介、魚住モールに掲示を出すなど当教室の存在をアピールしているが、情報が行き渡っていないのか、教室への参加者が増えない。

今後、支援を必要とする子どもたちにどのように参加を促せるか対応を考える。

この事業を通じて良かったことのエピソード

現在教室に参加している生徒は、コロナウイルスの影響で、中学校での対面授業をなかなか受けることができていなかった。そのためか、数学の考え方などが身に付いていなかった。

しかし、丁寧に指導することで、小学校の勉強とは異なること、中学校レベルの勉強法など、十分とは言えないまでも理解してもらえた。

高校に合格後、入学までの間も中学校レベルの基礎力を確実にするために、学習に来るよう勧め、継続して学習に来ている。

また、2025 年 4 月以降、新たな学習者（外国人枠で入学した外国籍の高校生）が参加している。

寄付者へのメッセージ

私共の活動をご支援いただき、ありがとうございます。

外国ルーツの子どもたちが将来明るく過ごせるよう努力を継続する所存ですので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

学習の様子

魚住モール内、教室の前の告知ポスター

なかよし「加古川マダン」開催実行委員会

団体概要：定住する在日韓国朝鮮人をはじめ、アジア、中南米出身の在日外国人の実情や保持している文化を東播磨地域の市民に紹介することで、多文化共生社会の実現を目指す。

事業名：第 22 回なかよし「加古川マダン」
助成額：180,000 円

事業の概要

加古川マダンでは、教育関係者をはじめ多くの市民を対象とし、外国文化に親しむことを通して、人権意識を高めることを一番の目的としている。また、そこに多くの子どもたちの参加を呼び掛け、外国にルーツを持つ子どもたちと日本の子どもたちの交流の場にもしていきたいと考えている。

そのため、年間 5 回ずつコリアン文化研究会と在日外国人人権講座を実施して、第 22 回なかよし「加古川マダン」のスタッフ、出演者を育てる活動をしてきた。本番の第 22 回なかよし「加古川マダン」では、様々な民俗舞踊や民族音楽の発表、外国にルーツを持つ子どもたちへのインタビュー、民族料理の提供などを行った。

事業の成果

・ブラジル人が何名か主催者側に立ってくれたので、兵庫県内外の日系南米人が多く集ってきた。
・毎年行っている手話通訳だけではなく、ところどころにスペイン語、ポルトガル語の通訳を入れて、日系南米人の人にもわかりやすい会にすることができた。
・ペルー民族舞踊や沖縄のカチャーシーの時に会場の参加者も一緒にステージに立ちはじめ、最後の韓国のティプリまで一緒に踊って楽しめた。その中には日本人も多くいて、十分な交流の時間になった。
・子どもたち同士の交流もでき、連絡先を交換する姿も見られた。
・特に教育関係者には、外国にルーツを持つ子どもたちの言葉の問題をとらえなおす良い機会となった。日本語が話せていても、それだけでは日本人と同じ学習を進めることができないことが理解できたと思う。

今後の課題

・もっと多くの外国ルーツの人に、積極的にかかわってもらえる手立てを探す。
・事前にどんな内容のプログラムなのか、外国ルーツのどんな店を出すのか、早めにホームページなどに掲載などして、たくさんの人に関心を持ってもらう努力をする。
・高い金額を出してきてもらった団体には、何回かに分けて出演してもらい、時間単価を抑える。
・後継者を育てる。

この事業を通じて良かったことのエピソード

春から予約していた会場が急に兵庫県知事選挙の会場になったため、1 か月前くらいから別の会場を探さなければならなかった。

しかし、以前加古川市別府町で 10 年以上にわたってマダンを開催してきたことでよく知られていたこともあり、良い会場を借りることができた。

また、別府町連合町内会会議の場で時間をいただき宣伝させてもらったことで、たくさんの参加者に来てもらうことができた。以前からの別府町の人たちとのつながりに感謝している。

寄付者へのメッセージ

私たちの苦しい財源を助けていただき感謝します。

【加古川マダンのフィナーレ】
「こるもっきる」によるプンムルノリです。
障害を持つ仲間がたくさん参加してます。

（特活）りとるめいと

団体概要：子育てをしているお母さん（日本に滞在している外国人の方々も同様）を対象に、子育て相談やストレス発散・くつろげる家庭的な居場所づくりを目的として活動。

事業名：外国籍の親子支援
助成額：200,000 円

事業の概要

〇利用者支援事業

・利用者支援員が日本・外国籍問わず相談事業を行っている。「お母さんたちの孤立を防ぐため」「地域で寄り添える場所を作るため」「外国籍の親御さんの相談窓口になるため」常時、支援を行っている。今年度の相談件数約 20 件。継続支援中。
・養父市移住・子育てサポートセンターにて平日・土日祝 9：00-17：00(火曜日は閉館しているので、その場合に相談ある場合は個別対応)
・外国籍の方の支援専用の番号があるので時間外対応可。

〇異文化交流イベント「第二回リトルサミット」を開催

・食を通じて交流を深め、他国の文化を知ってもらうために。また、外国籍の方に対する偏見の払拭、受け入れの器作りのために開催。
・子育てセンターに来ている親子や地域の方々や議員さん、またガルーダジャパンさんにも昨年同様に呼びかけ、地域のお祭りの日程に合わせて開催（R6 8/24）。

〇防災・緊急時の外国語対応のガイド作成

・以前作成した「子育て世代に向けた防災パンフレット(日本語版)」の英訳版を作成した。外国籍の子育て世代に向けて少しでも安心して防災に備えられるように市の健診の時に配布している。

事業の成果

・少しずつ外国籍の方の支援活動をしていることを養父市、朝来市の行政の方や日本語教室の方々にも知ってもらい、何かある時は声がかかるようになった。
・養父市の給食センターの方がアレルギーの対応と同じように宗教上の理由でも（豚肉除去）対応をしてくれるようになった。
・支援員としても関わってくださるミドリさんがフィリピン人の方なので何かある時はフィリピンコミュニティから相談されることが増えた。
・朝来市の日本語教室の方々に頼られることが増えた。
・兵庫北部の方の研修や講演にも参加する中で、朝来市には約 460 名、養父市には約 150 名の外国籍の方が居住していることが分かった。年々増加していくことも予想されるので、行政と協力して支援できるように話を進めたい。

今後の課題

・「地方」だからという理由だけではないのかもしれないが、外国籍の方に対しての偏見があるように感じる。また、行政の対応も追い付いていない。2027 年には「育成就労制度」が施行される予定なので外国籍の方に対する幅広いサポート体制を整えていく必要がある。行政機関には勿論、地域の方々にも伝えていきたい。
・外国籍の方々の文化を知り、触れ合う機会を作り続けること。そして私たち職員も「多文化共生」に関しての情報や知識について研修等を通して学び、スキルアップしながら今後の支援体制を整えたい。

この事業を通じて良かったことのエピソード

・豊岡市には民間団体でサポートしている場所があるが、養父市や朝来市にはないので頼れる場所ができて良かったと言われた。
・「外国籍の方の生活支援や子ども達の教育」に関してとても大事なことだから頑張ってほしいと市民の方々に言われた。
・この助成金を使い「子育て世帯に向けた防災パンフレット」の英訳版が完成した。情報があまり充実していない地方に来日して子育てする方々が安心して暮らせるように、防災の情報が届けられるようになったことは有意義な事かと感じている。今後、保健センターで行われる健診の際に配布したりして活用したい。

寄付者へのメッセージ

「外国籍の親子支援」も 2 年目に入り、支援が続けられているのは公益財団法人ひょうごコミュニティ財団さまをはじめ真如苑・ひょうご多文化共生基金寄付者の皆さまのお陰様です。いつもありがとうございます。

地方でも「多文化共生社会」を目指し、日々、寄り添いながら公平な支援が出来るように努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

新ひょうご・みんなで支え合い基金

1. この基金の趣旨

この基金は、下記の基金を合同で募集するものです。各基金は、いずれも個人・法人（企業）の篤志により設立されたもので、それぞれの指定分野の助成金に充当されます。

いずれの基金も、市民主体・市民参加の活動を応援するという趣旨は共通しています。

2. 募集する基金とその分野

（基金の名称）	（分野）
◇ 野田子ども・若者応援基金（新規）	子ども支援・若者の活動支援
◇ 一般募金（若者支援）（新規）	若者の活動支援
◇ 田中成治基金（新規）	子ども支援
◇ 中村毅一郎・婦美乃基金	子ども支援
◇ ASAHI-MITSUHASHI 基金	医療・子ども支援
◇ 岸鶴夫基金	高齢者支援
◇ 中村毅一郎・婦美乃基金	分野限定なし
◇ 實吉一夫基金	分野限定なし
◇ 匿名基金	分野限定なし

予算総額 700 万円

3. 対象となる事業

市民主体・市民参加で社会の公共的なことがらに取り組む試みを広く対象としました。社会課題の緩和や解決という「成果」も重要ですが、同時に、市民・住民が主体的に参加し、人々の力で社会課題に取り組もうという気運を醸成したり、幅広い協力のネットワークを形成するという面の結果とプロセスを高く評価しました。事業分野は対人支援に限りらず。まちづくりや人権、環境分野なども対象としました。

4. 対象となる団体と助成額

〇対　象：　兵庫県内で活動する非営利団体（法人格の有無や種類は不問）。

〇助成額：　「基本コース」 1 件 20 万円上限

「発展コース」 1 件 50 万円上限

5. 協　賛

本基金には、朝日ゴルフ株式会社様（ASAHI-MITSUHASHI 基金）、株式会社夢工房様の協賛をいただいています。

2024 年度 新ひょうご・みんなで支え合い基金 助成団体一覧

基金	分野	ｺｰｽ	団体名	事業名	所在地	採択額
野田子ども・若者応援基金	若者応援分野	基本コース	（特活）夢ノ森伴走者 CUE	デジタル技術を活用した「スマホ講座」を通じて行う世代間交流事業	姫路市	173,000
			（特活）ぐらんどすらむスクエア	不登校児童生徒のキャリア形成のためのメタバース空間構築事業 ※団体都合で活動できずご返金	西宮市	100,000 ※ご返金
野田子ども・若者応援基金、田中成治基金、中村毅一郎・婦美乃基金、ASAHI-MITSUHASHI 基金	子ども分野	基本コース	（特活）神戸アイフレンド	視覚障がい乳幼児の健やかな成長とその家族を支援する活動	神戸市須磨区	200,000
			（特活）みらぽて	親と子の居場所づくり	小野市	200,000
			（特活）スマイルポケット	ひとり親世帯の交流会＆子どもの料理教室事業	丹波篠山市	200,000
			Farm to Children	Farm to Children 立ち上げのための基盤整備	加古川市	200,000
			（特活）障害者地域生活応援団あかね	子ども食堂あかね＆宿題おわらせ会	川西市	150,000
			サークルささるんと	デジタルでは得られないリアルな体験で親も子も自分らしく生きる！子育て応援事業	宝塚市	150,000
			心をつなぐ応援団「西風（いりかじ）の宝」	『居場所』づくりを目的とした、こども食堂「西風（いりかじ）の宝」	宝塚市	150,000
			播州ストリートダンス協会	ダンスで繋がる希望のネットワーク～多様性と包括性の社会を目指して～	姫路市	150,000
			人心地	みんなでいろいろな体験してみようプロジェクト	神戸市兵庫区	150,000
		発展コース	（特活）HIKIDASHI	若者たちに正しい性の知識と気軽な相談場所を届ける「出張ユースカフェ事業」	明石市	500,000
			（特活）ゆるり家	駄菓子やをツールとした多世代交流の場づくり　おでかけひろば「おきらくだがしかし…」	稲美町	421,000
			兵庫フリースクール等連絡協議会	普及・啓発事業「子どもの権利・多様な学びを認める”こどもまんなか社会”を目指して」	神戸市中央区	300,000
			りすぺくと・ゆう	不登校支援のための地域づくり ～こどもの居場所「雑楽塾」をそのきっかけとする事業～	神戸市兵庫区	350,000
			（特活）ふぉーらいふ	地域連携による不登校の小学校低学年児童への体験と学びの提供・支援事業	神戸市垂水区	300,000
			（特活）神戸ロボットクラブ	プログラミング学習	神戸市中央区	300,000
岸鶴夫基金（高齢者支援）、中村毅一郎・婦美乃基金、實吉一夫基金、匿名基金	その他分野	基本コース	（特活）アイリス	想いを伝えるなないろカードで介活をはじめよう！	伊丹市	200,000
			tree donut	ひきこもり支援を行うための基盤作り～埋もれている当事者を見逃さないために～	猪名川町	200,000
			（特活）あんだんて KOBE	知的障がい児者が取り組む地域参加型音楽フェスティバル	神戸市灘区	200,000
			がん哲学カフェ＠加古川	がん哲学カフェ＠加古川	加古川市	50,000
			ひめじ西里山サポート倶楽部	竹資源を活用した地域おこし ～太市の筍を守ろう～	姫路市	100,000
			ゆずりは明石	がん患者その家族の交流の場の拡大とケア帽子寄付事業	明石市	50,000
		発展コース	神戸レインボーフェスタ実行委員会	神戸レインボーフェスタ 2024	神戸市中央区	500,000
			（特活）兵庫県障害者タンデムサイクリング協会	兵庫県で障害者タンデムサイクリングを楽しむ会	西宮市	350,000
			（特活）あしたあさって	地域と人を結ぶ一歩先のコミュニティ～旧水尾町公民館利活用	西脇市	350,000
合計						5,994,000 ※返金分を含む

（特活）夢ノ森伴走者 CUE

団体概要：活動を通して「自然環境の循環」（きらめ樹間伐、水脈整備、生態系調査、環境講演会）と「人と人との循環」（つながりカフェ）を生み出している。

事業名：デジタル技術を活用した「スマホ講座」を通じて行う世代間交流事業
助成額：173,000 円

事業の概要

兵庫県姫路市夢前町の老人ホーム「光寿園」にて世代間交流 Café むすびめを運営し、そこでの地域の方々と若者の交流機会となる「スマホ講座の開催」を行なっています。

また、当法人は運営チームがユース世代で構成されており、「若者の活力と新しい発想力」で新たな事業を考え、身近な助けてに応えることから始まる助け合いのまちづくりを実践しています。

今回は、Café むすびめ開業時にスマホイベントの開催や zoom、個別訪問によるアフターフォローを通して地域の方々の世代間交流機会の創出を行いました。

この事業を通して、スマートフォンを活用できない高齢者が様々なサービスから取り残されていく「デジタル・ディバイド」の解消と地域の方々が普段関わることの少ないユース世代との新たな交流機会創出を目的としています。

事業の成果

姫路市夢前町古知地区で実施する「若者によるスマホ講座」は、高齢者のデジタル・ディバイドを解消するだけでなく、他地域の課題解決のモデルケースとなる取り組みです。

若者にとってハードルの低い社会貢献活動として、小さな成功体験を共有することで自発的なボランティア活動の促進が行われ、今年度は新たなユース世代の仲間が 10 名加わりました。

また、防災アプリや高齢者向け健康管理アプリの普及、SNS の使い方を講座で扱うことで地域の方々から「これで不安がひとつ減った」という声をいただき、QOL 向上につながっています。

この世代間交流を通じて、高齢化が進む地域に若者の活気を呼び込み、高齢者の暮らしに笑顔と生き甲斐を生み出しました。

今後の課題

若者の参加意欲維持とチームビルディングを実施する上で、いくつかの課題点があると考えています。まず、若者が参加する動機づけを明確化し、役割や貢献が実感できる仕組みを構築する必要があります。

また、若者同士の連携を深める場を提供し、意欲や責任感を高めるためのチームビルディング活動を定期的に実施することが重要です。

その一方で、若者の負担を軽減しつつ長期的な参加を促進するためのサポート体制やインセンティブの提供も求められます。

さらに、地域全体を巻き込んだ支援環境を整備し、若者と他世代との交流を促進することで、地域貢献の意識を高めることも課題です。

この事業を通じて良かったことのエピソード

スマホ教室を開催する中で café むすびめのことを気に入ってくださり、何か困りごとがある時には café むすびめへと来ていただけるようになった地域の方々や、「この café に来ることが毎週の楽しみだ」と言ってくださる方が増えました。

また、学生からも「スマホについて教えることに自信がついた」「多世代と交流することがこんなに楽しいと思わなかった」といった声をいただき、学生のひとつの成功体験となりました。

寄付者へのメッセージ

この度は温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

皆さまの寄付により、私たちは若者と高齢者が共に学び合い、地域に貢献する活動をさらに広げていくことができます。皆さまのご支援は、持続可能な社会づくりへの大きな一歩です。引き続き応援のほどよろしくお願いいたします。

（特活）神戸アイフレンド

団体概要：視覚障がいのある子ども達とその家族が、より充実した生活や学習活動を送れることを目的にした支援活動を行っている。

事業名：視覚障がい乳幼児の健やかな成長とその家族を支援する活動
助成額：200,000 円

事業の概要

私たちは、視覚障がい乳幼児の見え方に応じた支援や育児相談・保護者支援を行っています。

今年度は、保護者の情報交換や子どもの交流の場としての「みんなであそぼう会」や 0・1・2・3 歳児の親子療育の「アイちゃんくらぶ」の実施、地域幼稚園に入園する全盲児のサポート（4 月）、研修講座「視覚障がい児の子育てのポイント」の開催（10 月）、理解啓発のための団体パンフレットの作成を行ってきました。

この他にも、視覚障がい乳幼児が安心して遊べる布のおもちゃ作りの会や新長田合同庁舎の生活創造フェスタで「見えない・見えにくいを体験する」「点字を書いてみよう」のワークショップを担当し、学習支援や点字付きメッセージカードの作成・販売も行ってきました。

事業の成果

「みんなであそぼう会」「アイちゃんくらぶ」では、子ども同士だけでなく保護者同士が顔見知りになり、子育てのことや病院のこと学校のことなどの情報交換を盛んに行っておられた。子どもたちの年齢が違うので、質問したりされたりして仲良くなっていたのは、印象的でした。

全盲児の通園支援は、園側の先生方にもいろんな場面での支援の仕方を学んでいただけ、保護者にとっても顔見知りの先生が見守ってくれていることで安心して預けることができたようでした。初めて大きな集団に入る対象児の不安をやわらげ、周りの子ども達となじむことができました。

コロナ禍で中断していた研修講座を 5 年ぶりに開催することができ、視覚障がい児の子育てに悩む保護者の支えになりました。講演の後の質問時間にもたくさん発言があり、関係する人たちに学びの場を提供することができました。

いろいろな機会をとらえて視覚障がい乳幼児のサポートのことを発信し続けることで、アイ・サポート教室（神戸市立総合療育センター）への問い合わせが少しずつ増えつつあります。

今後の課題

見えない見えにくい子ども達の保護者は、子どもが生まれた時から不安を抱え、どこに相談したらよいのかどの様にかかわっていけば良いのかがわからず、戸惑っています。医療機関や眼科医から当グループなどの支援機関につながれば、不安は少し減るのですが、なかなかその存在が知られていないのが現状です。

今回、研修講座を計画し、案内を病院・支援学校・市内各区の保健所に活動のパンフレットを同封して送りました。幅広い支援機関とつながりながら、不安に過ごしている親子に適切な支援が受けられるようになればと考えています。

併せて、私たち支援者自身が視覚障がいと併せ持つ障がいについての研修をし、学びを深めながら多様な支援ができるようにしていかなければならないと思っています。

この事業を通じて良かったことのエピソード

主な療育センターでの活動には、神戸市からの委託費があるのですが、ほとんどが人件費で教材や教具・乳幼児が使える椅子等を購入する費用の捻出に苦慮していました。

さらに療育センター以外の活動については、わずかな会費収入や寄付金しかありません。特に地域の幼稚園での全盲児の受け入れ支援については、10 日間のサポートでしたが、受け入れ園からも保護者からも感謝され、対象となった全盲児のその後の園生活もスムーズになじむことができました。

毎日幼稚園に行くことを楽しみにし、同じ 3 歳児クラスのお友達の名前を覚えたり、園であったことをご家族や私達にも話してくれたり、何より人とのコミュニケーションの力がぐんと伸びたことに感動しました。

全盲児が常に大人の支援を受けてばかりで子どもたちから孤立した園生活になってしまわないよう、最初に実際の場面を見ながら支援できたからこそ見えてきた成長だと思いました。

寄付者へのメッセージ

見えない見えにくい子どもたちとその家族の支援について、ご理解・ご支援をいただきありがとうございました。

視覚に障がいがあるとどんなことに困るのか、どんな工夫をすれば楽しく生活できるようになっていくのか、いろいろ思いをめぐらせることから支援がつながっていくことになります。

これからも、地道な支援を続けていきたいと思います。

みんなであそぼう会のクリスマス会
（プレゼントをもらう場面）

（特活）みらぽて

団体概要：小学生～中学生までの子どもたちを対象としたフリースクール。フリースクール事業、親のサポート事業、就労支援事業、子育てに関する啓発事業を行っている。

事業名：親と子の居場所づくり
助成額：200,000 円

事業の概要

本事業は、学校に行きづらい子どもが安心して過ごせる「居場所」を地域の中に設けるとともに、保護者が孤立することなく、同じ悩みを持つ者同士がつながれる場を提供することを目的に実施しました。

毎週月曜日には、子どもたちのための居場所「みらぽてLAB.」を開設し、月 2 回は保護者同士の交流を目的とした座談会「ほっとカフェ」を開催しました。

また、公式 LINE や電話、メールを通じた随時相談も行い、気軽に悩みを打ち明けられる環境を整えました。

子どもたちが安心できる空間で自分を見つめ直し、仲間との交流を通じて前向きな気持ちを育めるよう支援するとともに、保護者に対しては、同じ経験を持つスタッフが寄り添うことで精神的な支えとなるよう努めました。

さらに、学校や関係機関と連携し、不安の軽減につながるサポートも行いました。

事業の成果

本年度は、学校の不登校担当教員や市の子育て相談員からの紹介により、不登校児を持つ家庭からの相談件数が増え、保護者向け座談会「ほっとカフェ」への新規の参加にもつながりました。

ほっとカフェでは、参加者が子どもの将来への不安や関わり方の悩み、自身の価値観との葛藤を共有し合い、安心感や新たな視点を得る場となりました。参加者からは「気持ちが軽くなった」「自分の考えを見直すきっかけになった」といった声も寄せられ、子どもに良い変化が見られたとの報告もあります。

子どもの居場所「みらぽて LAB.」では、毎週月曜の通所が生活のリズムに定着し、体調不良や気分の落ち込みが軽減しました。産後助産院との交流や調理ボランティアなど地域とのつながりも増え、表情が明るくなった子どもも見られます。2024 年度からは活動が出席扱いとなり、安心して利用できる子どもが増加しました。

さらに、支援を受けていた若者がボランティアとして参加し、地域のボランティアとも連携しながら活動の新体制を築くなど、支援を受ける側から支える側へと成長する「循環型支援」の好事例も生まれています。

今後の課題

当団体は、週に一度、地域の中で誰もが安心して過ごせる「学校以外の居場所」づくりを行っています。

コロナ禍には「他人が怖い」「集団が苦手」といった悩みを持つ子どもたちが多く利用していましたが、卒業などにより継続利用者が減少し、現在はスポット利用が中心になっています。

一方、小野市内の不登校児童生徒数は年々増加しており、支援の必要性はむしろ高まっています。これは、子どもや家庭が当団体の存在を知らなかったり、心理的・経済的な理由で利用に踏み出せないなど、支援ニーズと提供側との間にギャップがあることを示しています。

また、保護者の相談や座談会「ほっとカフェ」への参加、不登校傾向にある子の保護者が隙間時間に居場所のボランティアとして来られているなど、保護者自身が他者とのつながり、気持ちの安定を求められています。

しかし、子ども本人の利用にはつながりにくいケースも多く、家庭内での事情や子ども自身の気持ちが大きな壁になっています。

各学校との連携を通して明らかになったのは、学校や行政とのつながりを持たず、1 回 500 円の利用料さえも負担に感じる家庭があることです。

今後は、こうした経済的・心理的なハードルを越え、必要な支援につながる仕組みづくりが課題だと考えます。

この事業を通じて良かったことのエピソード

昨年度まで LAB.で活動していた通信制高校の学生ボランティアが、子どもたちとの関わりの中で「支援を専門的に学びたい」という思いを抱き、見事大学進学を実現。この春、LAB.スタッフとしての役目を終え、巣立っていきました。

その姿は、LAB.に通う子どもたちにとっても大きな刺激となりました。身近な存在であるボランティアが夢に向かって一歩踏み出す姿を見て、「自分も進路について考えてみたい」と、少しずつ卒業後のことを話してくれるようになったと、保護者の方々から嬉しい声をいただいています。

また、卒業する学生ボランティアの後を引き継ぐように、今年度からは 20 歳の若者が新たに LAB.の活動に参加しています。彼は小中学校時代に不登校を経験し、通信制高校を卒業後、就労にうまくつながらず引きこもりがちになっていました。

しかし、「親の会」でつながっていたご家庭から「社会へ出るためのスモールステップとして LAB.での活動はどうか」とご相談があり、学生ボランティアの在籍中に活動をスタートしました。

現在は、その若者が中心となって活動に参加し、地域のスポットボランティアの方々も加わって、新たな体制で LAB.が始動しています。

ひとつの出会いが誰かの希望となり、また次の誰かにつながっていく――その連鎖こそ、私たちの事業の中で得られた大きな喜びです。

寄付者へのメッセージ

いつも温かいご支援をありがとうございます。

LAB.は、わたしたち当事者の保護者が「一人で抱えこまない場所をつくりたい」という思いから立ち上げた小さな団体です。子どもたちのために始めた活動は、今では保護者同士がつながり、共に支え合える場にもなっています。

「親の会」では、子育てや将来への不安を分かち合いながら、それぞれの家庭が少しずつ前に進んでいます。そこから若者の参加が生まれ、新しい役割を担う姿にも出会えました。

親の不安が和らぎ、笑顔が増えることで、子どもたちにも安心が広がります。皆さまのご寄付は、そんな家族全体を支える力となっています。今後とも、変わらぬ応援をどうぞよろしくお願いいたします。

大切な人へ贈るバレンタインチョコづくりの様子

（特活）スマイルポケット

団体概要：子育て世帯とつながり、よりそい続けることで、子育て世帯はもちろん、地域に笑顔があふれ、喜びがめぐる社会の実現を目指す。

事業名：ひとり親世帯の交流会＆子どもの料理教室事業
助成額：200,000 円

事業の概要

ひとり親は、特有の悩みや課題を抱えていることが多いにも関わらず、まわりの理解がなかったり、同じ境遇の親同士がゆっくり話す機会に恵まれていない。話をしたい内容は、子どもに聞かれたくない、子どもの前では話しづらいテーマや抱えている悩みや問題も多い。

そこで、子どもたち向けに別室で料理教室を行い、親同士がゆっくりと話す交流の時間を作る。料理教室に参加する子どもたちには、栄養士の指導の下「ご飯が炊ける、みそ汁が作れる」力を身につけてもらう。ただし、おかずを子どもたちで調理することは時間的に難しいため、日頃からお弁当を作り販売している障害者作業所などにおかずを注文し用意しておく。

親同士の交流が終わり、ご飯とみそ汁ができあがったら、お昼ご飯として、全員で一緒に食べる。自分の子どもが作ったご飯とみそ汁を食べれば、親子の自然な会話が生まれ、食事を用意することを通して互いへの感謝の気持ちも生まれる。

事業の成果

各回とも、残念ながら参加者は少なかった、それでも参加者からは「こういう場がほしかった」という声があり、ひとり親同士が顔を合わせ、子どもの前では話しづらい話や、ひとり親ならではの悩みを吐き出し相談する場をつくったことで、参加者の精神的な安定につながった。

子どもたちが料理をつくり、それを親子一緒に食べる機会を作ったことで、それぞれの親は子ども成長を感じることができた。体験機会の少ないひとり親世帯の子どもたちにとっては、料理教室への参加という体験そのものが喜びとなっている。

交流会への参加をきっかけに、当法人を通じて様々な支援策につながる、あるいは当法人が直接支援することで、経済的な状況や孤立した状態を改善することができている。それは、少しずつ支援やサポートを受けることは、自立に向けた第一歩となっている。

今後の課題

計画よりも参加人数が少なく、その原因が告知方法にあるのか、それとも開催日時の問題なのか、内容の問題なのかを調べることがまずは必要と考えている。

シングルマザーの支援に特化した他市の NPO 法人などが企画しているひとり親交流会には、多くの世帯が参加している例もある。そういう意味では、企画の内容自体を改善してくことで、丹波篠山でも多くの世帯に参加してもらえる企画になっていくのではないか。他団体がどのような企画で交流を図っているのか学び改善していく。

2 人親にはわからない悩み、子どもに聞かせたくない話など、シングルマザーが交流する場、体験機会の少ないひとり親世帯の子どもたちに体験の場を作ることは必要であり、今後も続けていく。

この事業を通じて良かったことのエピソード

今回の事業では、参加世帯数は少なかったものの、子どもの年齢は幅広かったため、年齢の高い子どもたちが、小さな子どもたちをフォローしながら料理する姿があちこちで見られた。

自然とそのような行動を取る子どもたちに感心すると共に、その微笑ましい姿は、スタッフやボランティアを癒し、笑顔にするものでした。

寄付者へのメッセージ

いつも市民活動を応援いただき、ありがとうございます。この度は、私たち NPO 法人スマイルポケットが取り組むひとり親世帯交流会＆子ども料理教室にも助成いただき、本当にありがとうございました。

行政では取り組むことのできない事業、制度の狭間にあって支援を受けられないなど、市民活動でしかサポートできない、支援できない子育て世帯がいます。

物価高騰の影響もあり、子育て世帯に限らず、高齢者や障害者など、弱い立場にある人を対象とする活動は今後ますます必要になってくると思われます。これからもご支援いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

料理をする子どもたちとスタッフ・ボランティア

大きな子どもたちが小さな子どもたちを
手助けしながら調理しています。

Farm to Children

団体概要：子どもたちが健やかに育つことができるように、保育園等の給食に安全で味のある美味しい食材を提供するシステムづくりを目的に活動している。

事業名：Farm to Children 立ち上げのための基盤整備
助成額：200,000 円

事業の概要

目　的：

子どもたちが健やかに育つことができるように、子どもたちに安全で味のある美味しい食材を提供するために地域で食に関心をもつ人を増やすことを団体の大きな目的としています。上記の目的を達成するために立ち上げを行った弊団体の基盤整備を今回の事業目的としています。

内　容：

小規模で安全なお野菜を栽培し食育に興味関心がある農家との連携し試食会を行ったり、食に対する意識や理解を高めるための講演会活動を行ったり地域全体で食への関心を高めるための活動を行います。

＊ 講演会活動：年間 3 回
＊ 試食会：年間 2 回

事業の成果

当事者：

今回助成金をいただいたことで、地域内での活動を円滑に行うことができました。

地　域：

講演会を行うことで、食や農に関心のある方々が地域内で少し増えさらに地域で同じように関心を持つ人たちの繋がりができたように感じています。さらに地域内で同じような考えで活動しているグループと連携もとりながら講演会や試食会を行うことができました。

今年から（2025 年 4 月から）今回講師を務めてくださった先生が有機農業教室を開催することが決まり、実際に土に触れ鍬を振るってみたいというお声をたくさん聞きました。講演会に参加してくださった方の多くが農業や食に関心を持ってくださり、参加を希望する方が増えたように感じます。座学で学び納得して、試食することで体感していただくことができました。

食への関心が地域全体で高まり、小さく畑をしたい、食生活、食の選択を変えてみようなど、食や農へ関心を持ったりする方々がさらに増えたように感じます。

1 人ではスタートに不安がある方も地域の仲間と一緒行うことで食や農への取り組みをそれぞれの方法で継続して行ってほしいと感じる 1 年でした。

今後の課題

今回講演会を中心に行いましたが、さらに多くの方に講演会を知っていただくための広報活動も必要だと感じました。まだまだ興味を持ってくださっている方々に届いていないように感じます。さらに、食や農に関心を持ち始めたばかりの方にとっては最初から講演会ではなく映画の上映会等だと足を運びやすいと感じました。

今後も同じ地域で同じような思いを持って活動されている、団体や個人の方々との繋がりを強め、連携してさらに活動を広げることができればと考えています。

この事業を通じて良かったことのエピソード

・講演会を行い食の安全や重要性についてお話しいただいた後等に実際農薬や化学肥料を使用しない食材を使い試食を行うことで体感していただくことができたと感じています。
・参加者の方が 4 月から加古川市でスタートする有機農業塾へ参加したいという要望をたくさんいただきました。
・その食材を地域で有機農業に取り組む農家さんから提供いただき、さらに参加していただいたことで農業への興味関心の広がりがありました。
・参加者同士が周りの方々と交流してお話をすることで同じ思いをもつ方々が繋がっていくことを実感しました。

寄付者へのメッセージ

1 年間で講演会や試食会等を行うことができたことで、地域の中で同じような活動をする方々との繋がりができました。まだまだ小さなスタートですが、様々な方々と連携して今後も活動を継続することができればと考えています。

助成していただいたことで、様々な活動に挑戦し実施することができました。微力ではありますが、子どもたちが安心して育つことのできる地域環境を広げるきっかけづくりになったと感じています。

神戸大学名誉教授　保田茂氏をお迎えして
加古川市で午前・午後と講演会を行いました

テーマは「食べものと子どものいのち」主婦の方々、地域で農業行っている方々、これから畑をスタートしようと思っている方、政治家の方など、様々な方々にお越しいただきました。

（特活）障害者地域生活応援団あかね

団体概要：障害者の地域生活を支援するための事業を行うとともに、地域住民が力を合わせて運営している地域のこども食堂「子ども食堂あかね」を行っている。

事業名：子ども食堂あかね＆宿題おわらせ会
助成額：150,000 円

事業の概要

相対的貧困といわれる状況下にある子どもたちは、家庭の経済状態や、それゆえに引き起こされる学習達成の状況に対して自分をあきらめ、劣等感を持ち、自分の将来について希望を持てない傾向が強い。私たちは、すべての子どもが一人一人、自分に対する肯定感を持ち、自分の将来について自分や社会を信頼できる子どもたちになってほしいと考えている。

そこで私たちは、子どもたちへの豊かな食の提供と家庭への食材提供、不登校生も含めて、学習に困難を感じている子どもたちへの一人一人に合った学習支援の提供を本事業で行っていこうとしている。

しかし、数年後に日本の貧困の状況が変化するとは考えにくいし、私たちの事業がそれを変化させるほどの力も持っているとは思えない。だからこそ、私たちの事業は、日本の中の各地に『ごく当たり前にある社会的インフラ』として「継続して」活動を続けていくことがとても重要だと考えている。

とはいえ、私たちの活動の中で出会った子どもたちが「自分にも味方がいるんだ。」「自分も自分の将来を夢見ていいんだ。」と少しでも感じてくれ前向きな人生を送り、やがて自分と同じような子どもたちや家庭に目を向けられる大人に育って欲しいと考えている。

事業の成果

年間を通して時には断らざるを得ないほどたくさんの子どもたちの申し込みがあり、多くの子どもたちが栄養いっぱいの豊かなメニューの「食」を楽しんでくれた。幼児も受けたことによって大人の参加も増えボランティアも含めて多世代の食の場が提供できた。

一方、子どもたちのみの参加の場合は、シングルや、保護者の帰りが遅い家庭の場合が多く、子ども食堂が安心して子どもを預けられる場として意識されてきたことを感じる。フードパントリーは多くの家庭に対してお米等の食材を届けることができた。提供する食材も社協を通じて地元の企業から集まるようになり、また地域の方々からもたくさんいただけるようになった。フードパントリーという取り組みが地域に根付いてきたことを感じる。

学習支援では、様々な理由で一人で学習しにくい子どもたちが参加してくれ、一人一人にあった支援を行ったことや時にはゲームや遊びを加えたことによって、中学生は学習に対する自信をつけ受験に望むことができ、小学生は楽しんで学習することができた。

今後の課題

毎回子どもたちの申し込みが大変多く、料理を作る側の力量を超えることがあり、調整やお断りするのはとても心苦しい。

フードパントリーについては、フードバンク関西のものを中心に、様々な企業さんや地域の方々から食材を提供していただけるようになってはきたとはいえ、必要とするご家庭の数に対してまだまだ十分とはいえない。確実に十分な食材供給のルートを確立することが課題である。

また、私たちの活動が支援を必要とする家庭や子どもたちに十分届いているのか、利用してもらえているのかという「問い」はいつも私たちの側にある。

支援を必要とする人たちが気兼ねなく SOS が出せ、その声をしっかり受け止められるような風土を醸成していきたいと思っている。

この事業を通じて良かったことのエピソード

ボランティアさんなどが、子どもたちとだんだん気兼ねなく話ができるようになり、会話の中で子どもたちが笑顔をみせてくれることが嬉しかった。また、食事の後「おいしいかった。」と子どもたちが声をかけてくれ、残さず食べてくれる様子をみると、「今日もちゃんと食べてもらえた。」と思えて嬉しかった。

また、いろいろな食材を地域の方がわざわざ届けてくださったり、「取りにおいで」と電話をくださり、「もらってもらってこちらこそ嬉しい。」と言ってくださったりする時は本当にありがたく、状況の厳しい家庭と「少しでも何かがしたい」という方の橋渡しができることが嬉しかった。

学習支援では、勉強に対する子どもたちの向き合い方が少しずつではあるが前向きになっていく様子を見ることが嬉しかった。

寄付者へのメッセージ

子ども食堂やフードパントリーは、常に財政的に問題を抱えながらの運営になります。本財団の助成は大きな力になります。本基金に寄付を寄せてくださったみなさん、本当にありがとうございます。

みなさんの思いが子どもたちの笑顔や自分を大切にする気持ちへとつながっています。みなさんの思いを大事にしながらこれからも活動していきたいと思います。

サークルささるんと

団体概要：地域の赤ちゃん、子ども達や親が、自然にふれあいながら、自分らしくのびのびと安心して過ごせる場所を提供する活動を行っている。

事業名：デジタルでは得られないリアルな体験で親も子も自分らしく生きる！子育て応援事業
助成額：150,000 円

事業の概要

・異年齢の赤ちゃんから大人まで、家族で参加でき他世代で交流できる居場所づくりや社会体験の場を提供することを目的に、和室のある古民家ではお月見団子作りやパンケーキ作り、子どもにお店（ストーンアート、スーパーボールすくい屋さん、リボン作り WS、マジックショーなど）を任せての夏まつりを行いました。

・自然体験、生活体験の場として宝塚自然の家、知明湖キャンプ場、能勢の農家さん、地域の公民館などを利用し、野外活動（野外炊事、火おこし、薪割り、薪や竹からのお箸づくり、川遊び、キャンプファイヤーなど）や生活体験（魚のさばき方教室、手ごねパンを焼くところからのハンバーガーセット作り、糀作り、味噌の仕込み体験など）を行いました。

・参加者は１人～家族まで、赤ちゃん～孫のいる方まで、幅広く多世代で交わり、子どもだけでなく大人も主体性を持って活動できる場所としました。大人も子どもも得意を持ち寄り、大人が子どもに教えるだけでなく、子どもがリーダーとなって活動することも多くありました。

事業の成果

・よもぎがわかるようになった、家でもよもぎ団子やよもぎパンを作りたい
・魚をさばけるようになった、家でもできた、魚が好きになった、海の事も考えるようになった
・マッチやファイアスターターで火をおこし、飯盒や空き缶でごはんを炊けるようになった
・夏まつりでは子ども店長にお店をまかせ、年少者からも来年は僕も私も店長やりたい！などの意見
・小麦粉からハンバーガーセットを作れた、米から糀を作ってお味噌を仕込んだ、薪からお箸を作った
・大人は大人で頑張る姿を見せながら、子ども達も自由にのびのび過ごせる環境ができました。

子どもも大人も出来る事が増え自信が付き、サークル外でも調理したり活動したり、と報告を頂き自主性や主体性が増えたと感じます。

何度も失敗して最後にできた経験を得たことで子どもの目つきが変わり、失敗は成功するためのステップ、口出しすることなく見守る環境を整える事で安心して来てくれる親子が増えた、親は親同士相談し合いながら心の余裕を持つ事もできたと感じます。

今後の課題

コロナ渦がある程度解消し、地域のイベントも徐々に復活してきましたので、「サークルささるんと」の必要性、存在意義について考える一年でもありました。

子どもや大人たちがいつでも来られる居場所であると共に、防災や野外活動、自然体験活動、生活体験活動をもっと進めていく団体にしていきたいと考えております。

キャンプ講師やお魚さばき講師、糀作り講師に来ていただいた内容を基に、団体の中で発展させていきたいです。また、子ども達が成長し、できる事が増えてきましたので、子ども主体（子どもに企画させるなど）のイベントも発展させていきたいと考えております。

この事業を通じて良かったことのエピソード

・お魚さばき教室では、料理に興味のなかった子が料理に興味を持つことができた。その後も家族で何度も同じメニューを作り、美味しくできたことで子どもの自信もついた。また、親も子どもに刃物を持たせるときの注意や見守り方などが学べた事で親子が共に学べ、パワーアップできたとのご意見を頂きました。

・宿泊キャンプでは、テントで寝る事に初めて挑戦する家族もあり、個々の家族だけではできない経験や、始めは不安を持っていた家族も最後は自信をつけることができた。キャンプファイヤーでは炎を囲んで、歌って踊って、小学生以来で、子どもより親が楽しんだ！毎年みんなでキャンプしたいとのご意見を頂いております。

・火おこしやナイフを使う状況では、子ども達がケガをすることもありました。それでも子ども達は応急処置をしてそのまま自らがんばってやり続けました。痛い思いをしながらも、もっとやりたい、うまくなりたいが勝ってやり続ける姿に大人が感動しました。

寄付者へのメッセージ

この度は助成、ご支援をいただき誠にありがとうございました。皆様の温かいご支援により、地域の子や親を対象とした交流イベントや、体験イベントを開催することができ、たくさんの笑顔を生み出すことができました。

子どもが未来に希望を持てる世界にしたい、そのためにも大人が楽しんでいる、笑っているところを見せたいと考えております。今後も活動を続けて参りますので引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

キャンプファイヤー風景

心をつなぐ応援団「西風の宝」

団体概要：どんな境遇・立場・身体の人でも愛される社会をめざす。誰もが大切にされ「生きていてよかった」と実感できる地域社会を創るため活動していく。

事業名：こども食堂
助成額：150,000 円

事業の概要

今年度は、こども食堂として 2 年目の活動となりました。昨年度は違う場所で行っていたため、今年度は新天地でのスタートになりました。

当初は知名度もなく参加者も数名でしたが、様々な機関に広報の協力をしていただいたおかげで、徐々に参加者も増えてきました。「こどもには安心してお腹いっぱい食べてほしい」という強い願いから、設立当初から子どもは無料・おかわりも自由にしてきました。『いつもそばにいるよ』ということで、沖縄そばやセットを提供しました。

私たちの活動を応援してくださる方が「自分はできないけれど、少しでも役に立ててほしい」と、食料を寄付してくださいました。「私たちは、そういう方々の思いを一緒に参加者さんに届けているんだ」ということをかみしめながら、今後も子どもや親御さんや地域の方にとって、ホッとできる場所として、より良いものにしていきたいと思っています。

事業の成果

会場であるコープさんの「コープ de 夏休み」という企画で、私たちもこどもと沖縄の太鼓エイサーを踊ったり、沖縄のお菓子「ちんびん」を作ったりする企画をしたことから、私たちのこども食堂を知ってくださって、その時の子どもがほぼ毎回来てくれるようになりました。

スタッフがまだまだ少ないため、利用者さんが多い時は、そういうこどもたちが配膳を手伝ってくれたりしたことがとてもうれしかったですし、将来的には、今のこどもが中高校生になってスタッフになってくれることや、お客さんであるこどもが主体となって運営するようになるのが、展望しているこども食堂の形だと思っています。

地域の中には、「自分一人ではなかなかできないけれど、家にある食料を寄付して協力したい。」という方が何人もおられ、ご寄付の品物を提供することもできたことは本当にありがたかったです。また、FM 宝塚への出演の際に、私たちのことをホームページに掲載されていたのを見て、「スタッフとして協力したい」と言ってスタッフになってくださる方も出てきたりして、少しずつではありますが、土台が出来つつあります。

地域との出会いで言いますと、社会福祉協議会の方のご協力でこども食堂での「ウクレレ演奏会」や SDGS を考えた「手作りおもちゃで遊ぼう」企画が実現したり地域の方と繋がれたりと、これからも力になってくださる方々が増えてきたことが、大きな成果です。

今後の課題

課題はやはりスタッフ不足です。幸い少しずつスタッフ協力者が増えつつありますが、これからのことを見通した時次世代を担う若者の協力が必要であるということです。この点についても、現在 2 つの大学生のボランティア団体さんと知り合ったため、スタッフ会議に同席してもらい、夏ごろに大学生企画をすることになっています。

来年度は若者がこういう活動に興味をもって持続的に取り組んでくれるようになるために、共通理解を含めた打ち合わせやこどもを取り巻く問題について考える(虐待・ネグレクト・不登校・ひとり親家庭・里親などのテーマの)スタッフ学習会を企画しています。

この事業を通じて良かったことのエピソード

この事業を通じて実感したことは、地域にはフードドライブをはじめ、私たちの活動を知ってくださった方や、その紹介者さんが食材や物資のご寄付をくださる方がたくさんおられるということでした。

本当に、周りの方々の温かさに感謝します。そういう目に見えないエールを感じ、また頑張って食堂をしようと思うようになりました。

しかし、善意で活動する私たちの自己満足で終わらせてはいけないと思います。こどもは国の宝です。本来は、社会の担い手であるこどもの育ちを保障するのは、国だと思います。私たちは食を通じて、社会の生きにくさをより強く感じました。

どうすれば、このこどもの状況を変えることが出来るのかと深く考えるようになりました。私たちの営みは、社会が変わるきっかけになるのだと確信しました。

寄付者へのメッセージ

この度は、たくさんの助成金を配当いただきまして、本当にありがとうございました。

今年は昨年度より先を見通した計画を立てることができ、実施したいけれどできなかった企画も少しずつ実現し、本当に充実した一年間となりました。

今後は、さらに子どもたちにとって希望ある未来が作れるよう、こども食堂を充実し、たくさんの機関と連携をして、たくさんの知恵をいただきながら、活動を広げていきたいと思っております。

以前からの願いだった拠点設立が本格的に進んできましたら、またぜひお力を頂けますとありがたく思います。

よろしくお願いいたします。

1 月お正月企画「餅つき大会」

播州ストリートダンス協会

団体概要：ストリートダンスを安全・安心で、青少年から中高年までが楽しめる芸術・スポーツとして発展させ、 さらに大きく飛躍させることを目指す。

事業名：ダンスで繋がる希望のネットワーク
～ 多様性と包摂の社会を目指して ～
助成額：150,000 円

事業の概要

■ 目的

・引きこもり・不登校児童生徒や障がいのある方を含む“誰もが安心して表現できる居場所”を創出する。
・ダンスを媒介に自己肯定感・コミュニケーション力を高め、社会的孤立を解消する。
・世代・属性を越えた交流を促し、包摂的で活力ある地域コミュニティを育む。
・ストリートダンス文化を健全に発展させ、次世代へ継承する。

■ 行ったこと（2024 年度）

・月 1 回×9 回のダンス練習会＆交流会をたつの市内体育館・民間スタジオで開催。
・プロ講師 3 名による表現力・コミュニケーションレッスンを実施。
・障がい者・不登校児・健常児混成のダンスチーム（2～3 組）を結成し共同パフォーマンスを制
・たつの市民祭り・皮革まつりなど地域／外部イベント 5 件に出演し、観客延べ 10000 人超へ発信。
・現役ダンサーやキッズダンサーとの合同練習を年 4 回行い、ロールモデルとの交流機会を提供。

事業の成果

・延べ約 300 名が練習会・交流会に参加し、うち約 7 割が障がいのある参加者
・「自信がついた」、「表現が楽しくなった」との意見があった
・新たな友人や相談相手を得て、学校・地域活動への参加頻度が増加
・障がい者・不登校児・健常児混成のダンスチーム 2～3 組が継続的に活動開始、地域イベントでも共演
・地域イベント 5 件出演により、インクルーシブなダンス文化を発信
・練習会参加者の保護者から「家庭内の会話が増えた」「笑顔が増えた」との意見があり
・福祉施設・フリースクールとの協働により、ダンスがリハビリ・情緒支援プログラムとして採用される動きが開始
・参加者の成功体験が口コミで広がり、次年度の募集前エントリー見込みあり

今後の課題

■ 障がい特性に応じた支援体制の拡充：

手話通訳・視覚支援・バリアフリー会場の確保など、個別ニーズに対応する専門スタッフと資金が不足。

■ インストラクター人材の確保と育成：

若手講師の離職リスクやスキル偏在を解消するため、研修プログラムとキャリアパス設計が急務。

■ 長期的な資金安定化：

助成金依存から脱却し、企業協賛・クラウドファンディング・会費制など複線的収入源を確立する必要。

■ 会場・機材の確保と拡張：

参加者増に伴い、市内体育館やスタジオの予約競合が激化。自前拠点や提携施設の整備計画が課題。

この事業を通じて良かったことのエピソード

・“やり切る笑顔”がチーム全体の雰囲気を明るくし、他の知的障がい児も積極的に声を上げるように。
・保護者は「家でも曲を流すと自発的に練習するようになり、生活リズムまで整った」と報告。
・成功体験が自尊感情を育み、挑戦が挑戦を呼ぶポジティブな連鎖が生まれています。

寄付者へのメッセージ

温かなご支援を賜り、心より御礼申し上げます。皆さまからいただいた寄付は、ダウン症や知的障がいのある参加者も含め、子どもたちが安心して踊り、自信と笑顔を育む“居場所”づくりに直結しました。

舞台で輝く姿に保護者や学校から感動の声が寄せられ、地域にインクルーシブな文化が根づき始めています。これからも「誰も取り残さないダンスの輪」を広げ、次世代へ希望をつなげてまいります。

今後とも温かいご支援・ご声援を賜りますようお願い申し上げます。

3 月 30 日（日）VISION DANCE 2025

姫路市民会館、ステージ出演。観覧席には 900 人弱。
ダンスチーム 65 チーム参加、延べ 2000 人の来場者。

人心地

団体概要：誰かと会い、不安や悩みを話したり聞いたりすることで、一人で、母子だけで、または家族だけで孤立をさせないことを目的に活動している。

事業名：みんなでいろいろな体験してみようプロジェクト
助成額：150,000 円

事業の概要

子どもを持つ母親が福祉的なニーズを必要とするまでもないけれども、少し子どもを預けたい、週末に子どもが遊べる場所がほしいという切実な声がある。都会に住む家庭の多くで共通していえることは、頼れるおじいちゃん、おばあちゃんが近隣におらず、保育園に預けていたり、小学生の子どもは一人で留守番をさせなければならないという状況がある。

そういった声を受けて、活動拠点「えげやまべーす」を整え、とにかくつながりを作っていくことが必要だと感じ、事業を始めた。

本事業は「みんなでいろいろな体験をしてみよう」を企画し、イベントを通して、①子どもたちが週末に自然や伝統を知る機会を作ること、②一緒に来る保護者の方にイベントを通じて子どもと共に学ぶと同時に、人心地の活動を理解し、今後必要なときに「えげやまべーす」に来られる関係性を構築する足掛かりとすること、③昔遊びや餅つきなどを通して地域の方との交流を促進することを目的とした。

事業の成果

イベントは毎月いずれかの週末に開催をしたため、多くの親子が、「えげやまべーすでイベントをやる」とインスタグラムで知り、参加をしてくれた。

延べ 254 人の親子が 1 年間で参加をしてくれたことは親と子の居場所を作ることを目的とした活動は一定の成果があったと考える。

参加者からは「話せたいときに話せる、聞いてほしいときに話せる場所があることに元気がでる」、「くつろぐ環境があることに感謝」、「すべてのイベントが楽しく、運動会で大人もパン食い競争に参加できるなど、こちらも全力で遊べたのは楽しかった」、「星見会も夏の予定だったが、雨で冬に変更になったが、子どもたちが土星を望遠鏡で見れるなどとても貴重な機会を得られた」とすべてのイベントに対して好評な意見がイベント終了後に多く寄せられた。

今後の課題

来年度も継続して同事業は行っていく予定であるため、助成金がないなかでどのように続けていくかを検討していく必要がある。参加費をあげるなど対策を行い、自主財源で続けていけるよう努力する。

1 年間本事業を実施した中で、今後の課題としては外でイベントを開催する予定の際は、雨が降った場合の代替案を考えておくことができなかったため、7 月のイベントは中止になることがあった。そういった場合、どのようにするかは事前の計画で今後は検討しておきたい。

スタッフは今後も継続してボランティアとして運用していくため、大きく広げること以上に、現時点での利用者さんに寄り添いながら事業を細く長く続けていきたい。

この事業を通じて良かったことのエピソード

1 年間を通して本事業をさせていただいたため、年間計画を安定してたてることができた。

また年間を通じてリピーターの利用者が多く、子どもが安心して遊べる場であると同時に親が集える場としても活用されたことは本来の目的を果たせているという実感を得ている。

イベントで最初は参加をしてくれたご家族も次は通常開けているだけのカフェの日にも立ち寄ってくれることもあり、また子どもたちの親同士で誘い合って、カフェの日に遊びに来るといったことにもつながった。

寄付者へのメッセージ

今都会に住む多くの子どもたちは習い事などで忙しかったり、習い事をしたくても経済的理由によってできなかったりと色々な問題に直面しています。

この助成金のおかげで 1 か月に 1 回は親も子どもも集える場ができ、子どもたちはのびのびと遊んだり、驚いたり、感動したり、そして親も本気で笑ったり遊んだりすることができました。ありがとうございました。

2 月のイベント　節分の日

（特活）HIKIDASHI

団体概要：子どもたちが自分自身の力を伸ばして豊かに暮らせる社会づくりをするため、性教育を中心に「イキルチカラヲヒキダス」教育をお届けしている。

事業名：若者たちに正しい性の知識と気軽な相談場所を届ける「出張ユースカフェ事業」
助成額：500,000 円

事業の概要

駅前の中高生交流施設や大学の学園祭等、若者が普段から出入りしている場所へ出向き、若者が性について気軽に相談し、正しい知識を得ることができる場所「ユースカフェ」を出張型で開催した。スタッフは看護師・保健師・助産師・思春期保健相談士等の専門職が対応した。

具体的な内容としては、性教育に関する書籍の展示紹介、月経用品の展示紹介、避妊具の展示や使用方法の指導、リーフレットの配布、相談対応等を実施した。また、定例開催している施設では若者向けの性に関する図書やリーフレット等を自由に閲覧できるようにし、開催日以外でも様々な情報を得られるよう工夫した。

〈定例開催〉　それぞれ月１回
・ユースプラザ KOBE・EAST（神戸市東灘区）
・中高生世代交流施設 AKASHI ユーススペース（明石市）
〈イベント出展〉
・大学の学園祭（兵庫県立大学、神戸女学院大学、神戸学院大学）
・神戸レインボーフェスタ
・民主主義ユースフェスティバル神戸

事業の成果

・定例開催の場所では、徐々に顔なじみを増え、少しずつ気軽に話しかけてくれる若者が増えた。性教育の講演先の学校でこの場を周知し、そこで講演を聞いた生徒さんが相談に来てくれたこともあり、少しずつではあるが地域の中高生の相談場所として認知されるようになってきている。まだまだ込み入った話をすることには抵抗のある利用者も多いかもしれないが、引き続き関係づくりを図っていくことで、いざという時に相談できる場所や存在になれるよう継続していきたい。

・学園祭の出展では、学生だけでなく幅広い年代層に性教育の普及啓発ができて良かった。特に初出展となった兵庫県立大学明石看護キャンパスでは、看護学部の学園祭ということで来場者の健康意識も高く熱心に話を聞いてくれる印象だった。

・学園祭というオープンな場所での開催ということで、気軽に足を踏み入れてくれる人も多かった。ただ、年１回の開催なので、いつでも相談できる場所としては機能しないという課題もある。

・3 年間続いての出展となった場所では、リピーターも多く、このような場所が必要だと感じているが他に無いという意見も複数聞かれ、継続的に開催できる場所の必要性を感じた。

今後の課題

学園祭等への出展は、とても楽しく性についての知識を届けることができ、来場者からは好意的なご意見をたくさんいただいていますが、年１回の開催となるので何かあった時に継続的に相談したり、悩んだその時にタイムリーに相談できる場所としては機能できないのが現状です。学園祭だけでなく継続的にその大学等に関われる仕組み作りも検討していく必要があると感じています。

対応するスタッフは看護師、保健師、助産師、思春期保健相談士等の専門的な知識を持つスタッフが必要になってきます。事業が拡大するにつれて、従事できるスタッフが不足することも考えられますので、継続的に活動できる人材や資金の基盤を作っていく必要があると感じています。

この事業を通じて良かったことのエピソード

この事業を通して、「知らないことが多いことに気づいた」「大切なことだけどきちんと知れて良かった」「今までこんなふうに話せる場所がなかったので相談できなかったけれど、話せて良かった」等の声が寄せられることも多く、この地域に必要な場であると確信しています。

事業を継続していくにつれて、自分から繰り返し足を運んでくれる人が増えてきたことからも、そのことがよくわかります。

性についてのタブー感をすぐに拭い去ることは難しいかもしれませんが、大切なこととして向き合ってくれる人が少しでも増えること、そして何かあった時にはここに相談すればいいんだという安心を感じてくれる人がこれからも増えていけばいいなと思っています。

寄付者へのメッセージ

ここまで 2 年間、資金面で支えていただき本当にありがとうございました。2025 年度は不採択となってしまいましたが、まだまだ今の日本は性に関する課題が山積みです。

そして、これまでずっとタブーなこととして長い間きちんと向き合ってこなかったものを、すぐに「大切なことだからオープンに話しましょう」というのはとても難しい。

一つの価値観、一つの文化を変えていくことは時間のかかることですが、でも大切なことだからこそ諦めずにじっくりと取り組み続けていきたいと思っています。

これからもご支援どうぞよろしくお願い致します。

（特活）ゆるり家

団体概要：兵庫県稲美町の古民家で、子育てひろば、水曜日の放課後だけの駄菓子屋さん、放課後居場所カフェなど、さまざまな居場所づくりを行っている。

事業名：駄菓子やをツールとした多世代交流の場づくり
おでかけひろば「おきらくだがしかし…」
助成額：421,000 円

事業の概要

地域のつながりの希薄化や少子化の影響で、子どもたち同士が遊び、育ち、学びあう機会が減っている。また、子どもたちが自由に遊び、過ごすことができる場所も地域の中から消えていっている。

これらの社会変化を踏まえ、こどもの居場所は意図的に作り出す必要があるといわれている。当団体は稲美町で 15 年間こどもの居場所としての「駄菓子や」を運営しており、週 1 回 2 時間ほどの開催にもかかわらず、毎回 20～30 人の子どもたちが訪れる。子どもたちにとって自由に過ごせる居場所となっているが、校区外の子は来ることができない。

稲美町では高齢者向けのつどい場やサークル活動が各地区の公会堂を利用して行われているが、子育て中の親子や子どもたちが参加する形にはなっていない。

高齢者世代や子育て世代にとっても懐かしく、魅惑的なツールになると考えられる「駄菓子や」というツールをもって各地区に出向くことで、多世代がゆるやかに交流でき、子どもたちが自由に過ごせる居場所づくりを行った。

事業の成果

① 保護者に送ってもらわなくても子どもたちが自分の足で行ける居場所が地域の中に増えた。普段のゆるり家でやっている居場所には来られない、他校区の子どもたちが参加することができた。5 校ある小学校区すべてでおでかけひろばを開催することができた。

② 地域の公民館をつかって、子どもたちが自由に過ごせる居場所をつくる、というモデルを示すことができた。民生委員や子ども会の役員さんと一緒に居場所づくりができた。

③ 自治会長さんの理解を得ることができて、自治会の回覧板でお知らせを回してもらうことができ、地域の様々な人に情報を届けることができた。

④普段は高齢者が主に利用している公民館に、駄菓子やおもちゃなど、子どもや子育て世代がすごしやすくなるツールをもっていくことで、ゆるやかな多世代交流の場ができた。このような形なら、来年以降も数回やってもいい、という声が聞かれた。

今後の課題

稲美町内で 5 校ある小学校区すべてでの実施ができたが、自治会等地域の協力を得るところまで行っていないところは参加者も少なかったので、今後、地域との連携を深めていきたい。

校区が広い小学校区では、学校から帰宅後、遊びにいく時間がそもそもないところもあり(自由時間がない)、子どもたちが自由に過ごせる場所の減少だけでなく、自由に過ごせる時間もないという社会課題に改めて気がつかされた。

今後、より多くの地域で開催できるといいが、回数が増えればその分スタッフの負担が増えるため、自治会や子ども会等、地域の人たちと人員確保等の協力をして開催する仕組みを作る必要がある。

この事業を通じて良かったことのエピソード

民生委員さんの会合で、ゆるり家の活動報告をさせてもらう機会があったので、そこでもこの事業の開催場所を募集させてもらった。すると、ある子ども会の役員さんから依頼が入り、クリスマス会に出張させてもらうこととなり、役員さんたちからもとても喜ばれた。

子どもの人数が減っている子ども会では、イベントを企画しようと思っても、役員さんの負担も大きく、コロナ以降、イベント自体をやめてしまっているところも少なくないようである。「おでかけひろば」を利用してもらうことで、子ども会の役員さんの負担を軽減しつつ、子どもたちの交流の場がつくれる、という活用の仕方ができることに気がつくことができた。

こども園での開催では、たくさんの共働き家庭の親子に参加してもらうことができた。育休中にゆるり家の子育てひろばに参加してくれていた親子と久しぶりに再会することもできた。

寄付者へのメッセージ

今まで、自分たちの拠点の近くに住んでいる子たちは遊びに来ることができても、遠くの子たちが遊びに来ることができないことが気がかりでした。以前から、おでかけひろばの構想はあったものの、なかなか実現できなかったことが、今回助成金をいただけたことでスタートすることができました。

思っていたよりたくさんの子どもたちに来てもらうことができ、また、多くの地域住民の方に協力していただけたことをとてもうれしく思っています。本当にありがとうございました。

〈国北公民館にて〉
おでかけひろば
「おきらくだがしかし…」

兵庫フリースクール等連絡協議会

団体概要：「子どもの学ぶ権利」の保障、「子どもの最善の利益」の周知啓発等、法律・条約の周知や不登校の理解、長期休み明けの自殺予防等を目的に活動を行っている。

事業名：普及・啓発事業「子どもの権利・多様な学びを認める“こどもまんなか社会”を目指して」
助成額：300,000 円

事業の概要

近年、我が国の不登校は一貫して増え続けている。一方、社会の不登校に対する理解も徐々に進みつつある。しかし各種支援制度は必ずしも十分な理解・周知がされているとは言い難い。

このような中、新たな行政機関として「こども家庭庁」が令和 5 年 4 月に発足し、「子ども政策の強力な司令塔」としての役割が期待されているがその内容についても十分な周知がされているとは言えない状況である。

この事業では、こども家庭庁より不登校の担当官をお招きし、神戸と姫路で講演会を実施し第一部において不登校に対する国の施策説明をしていただいた。

また、第二部では「こどもまんなか社会」の実現に向けて、不登校の子ども達にも参加してもらい、こども家庭庁に直接当事者の声を届けて、当事者・保護者はもちろん、支援機関も含めてそれぞれが、子どもの最善の利益を実現するために、どのように行動できるのかを考え実行に移すための貴重な機会となった。

事業の成果

講演会終了後のアンケートにおいて、8 割以上の方が「良かった・大変良かった」と回答。こども家庭庁の取り組みについて、「知らなかった・あまり知らなかった」方が 6 割となった。

また、自由記述欄には、こども家庭庁の話を聞けて良かった、特に子ども達の声を直接聞けたことが良かった、支援者とのつながりができたなど、さまざまなご感想・ご意見をいただいた。

【自由記述欄（参考）】
・小・中学校に資料を持ち帰り管理職・支援担当教員に説明し情報提供する
・こども家庭庁の新事業について市の担当者と話したい
・不登校のこども達や特別支援学級が、増加している現状に気付いて、このままでは将来を担う地域のこども達にとって何が必要なのか？と考えるようになった。

などのご意見があり、講演会が参加者や地域にとって非常に有意義であったことがうかがえる。

今後の課題

不登校を支援する法律である教育機会確保法の付帯決議中に、フリースクール等の多様な学びへの経済的支援を検討し、財政上の措置を講ずることとされている。熱心な自治体によっては、経済的支援が少しずつ行われるようになってきたが、まだまだの状況である。当協議会が発足して以降、兵庫県や各行政機関への働きかけを行っているところであるが、引き続き経済的支援について要望を続けて行きたい。

また、当協議会の活動目的として、こどもの自殺防止を掲げているが、2024 年の自殺者数は近年減少傾向にあるにも関わらず、小中高生の自殺は 527 人で統計開始以降、過去最多となっている。このような現状を憂慮し、こどもの自殺防止の活動も引き続き継続したい。

この事業を通じて良かったことのエピソード

こども家庭庁の担当官が、子ども達の声を聞く場面で、直接子ども達の輪の中に入って質問し、その声を真摯に受け止めていた場面がとても印象的だった。

こども家庭庁の目指す「こどもまんなか社会」の実現の為に、子どもの声を聞くということが謳われているが、実際はなかなか当事者（不登校生徒）の声を聞くことは容易ではなく、こども家庭庁にとっても当事者である子ども達にとっても、私たち支援機関にとっても貴重な場であった。会場では子どもをまんなかに、大人たちが周りを囲んで、温かい視線で寄り添いながら子ども達の意見を聞く場面が見られた。

また学校になじめなくて辛い学校生活を送っていた子ども達が、フリースクールに出会って、本来の自分を取り戻し、キラキラと輝きながら、自分の意見を堂々と発言しているところがとても印象的だった。

寄付者へのメッセージ

私たち兵庫フリースクール等連絡協議会は、兵庫県下のフリースクール等不登校生徒の居場所、不登校親の会、支援機関等がメンバーとなり、不登校への理解、法律の周知、子どもの自殺予防の活動などを実施し、学校以外の多様な学びが認められ、フリースクール等への経済的支援が実現することを目指し、学校に行かない・行けない子どもたちが不利益を受けることなく、安心して生きていける社会の実現を目指しています。

ぜひ応援をよろしくお願いいたします。

りすぺくと・ゆう

団体概要：こどもの居場所「雑楽塾」を通じて、地域の方と力を合わせて不登校の問題に取り組んでいくことで、地域が不登校児を支援していく土壌を作る活動を行う。

事業名：不登校支援のための地域づくり ～こどもの居場所「雑楽塾」をそのきっかけとする事業～
助成額：350,000 円

事業の概要

私たちは神戸市の福祉職員として不登校児の問題に携わることで、こども自身の問題だけではなく、家庭環境など社会問題にも直面しその支援することの難しさを感じています。私たちはこの問題を家庭内の問題とするのではなく社会全体の問題としてとらえ、こどもたちを地域のみんなで育てていく、そのひとつのきっかけとして「雑楽塾」を設立致しました。

「雑楽塾」を通じて、地域の方と共にこどもたちが安心して遊べる場所をつくり、地域とこどもたちのつながりを強めていくこと、こどもたちが様々な経験をする場として地域社会全体で支援していくこと、こどもたちと地域をつなぐ「こどもたちの居場所づくり」を目指して活動を行ってきました。

事業の成果

雑楽塾では様々な学習方法を取り入れこどもたちにアプローチすることで、「学習」が単なる与えられた課題への取り組みではなく、自ら「学ぶ」ことへの興味・関心を促すことを目指しています。

自ら「学ぶことの楽しさ」や「未知なことに興味をもつこと」を体験し発見することにより、こどもたちの自発的な意欲と自己肯定感の向上につながっていることは大きな成果の一つといえます。

また、雑楽塾（地域での居場所）の運営を通して地域の方々には主体的にこどもたちを受け入れて頂ける関係性ができつつあり、地域の方とこどもたちとのつながりによって、こどもたちにとっても「地域」が「安心できる居場所」であり、また地域の方にとっても、自分たちが住む地域が「愛着のある場所」へと変化してきたことは、事業を行う上での地域に対する大きな役割のひとつと感じています。

今後の課題

今後の課題としては、「こどもの居場所」がなくならないよう運営を維持継続させていくことにあります。

そのためには、地域の方や地域企業にもより関心をもってもらい地域に根付かせていくこと、こういった場所づくりが地域には必要なのだと理解頂くことが大事になってくると感じています。

また、ひとりひとり多様性に富んだ個性を持ち合わせるこどもたちが自分の魅力や可能性に自分自身で気づき成長してもらうためには、多岐にわたる体験や経験できる機会を設けること、そのためにあらゆる分野の方に働きかけご協頂く必要があると感じています。

この事業を通じて良かったことのエピソード

～居場所がつくった、ひとりの男の子の変化～

こどもの居場所に通い始めた、小学校 2 年生の男の子がいました。最初のころは、母親と一緒に参加して、顔を伏せたまま、誰とも目を合わせず、静かに座っていることが多い子でした。けれど、週を重ねるごとに、少しずつ笑顔が見られるようになり、遊びや活動にも楽しそうに参加するようになっていきました。

ある日、その子の小学校の校長先生が居場所を訪れたときのこと。男の子の笑顔を見た瞬間、校長先生は驚いたようにこう言いました。「ああ、だから最近、学校でも明るく過ごせるようになったんですね」

居場所で出会った友達と仲良くなり、その関係が学校にもつながり、話すきっかけができたことで、学校での人間関係も自然とうまくいくようになったようです。ひとつの安心できる「居場所」が、こどもの日常や心のあり方を変える。それを実感させてくれた、忘れられない出来事でした。

寄付者へのメッセージ

このたびは、「雑楽塾」への熱いご支援を本当にありがとうございました。いただいた応援が、こどもたちにとって「ここにいていい」と思える安心の居場所をつくり出しました。不登校の子も、ゲーム好きな子も、勉強が苦手な子も誰もがそのままの自分でいられる場を持てたことで、小さな一歩を踏み出しはじめています。

地域に笑顔が芽吹き、つながりが生まれ、「一緒に未来を創りたい」という輪が広がっています。

わたしたちは、10 年後にはこどもたち全員が、自分らしくいられる居場所を見つけ、自信を持って生きていけるまちを本気で創りたいと考えています。その一歩目を共につくってくださったみなさまに、心からの感謝込めて。

本当にありがとうございました！

パソコンのイラスト作成の時間

（特活）ふぉーらいふ

団体概要：フリースクール ForLife の運営を中心に、不登校や発達障害などの子どもたちとその親を支援する事業や、その社会理解を深める活動を行っている、

事業名：地域連携による不登校の小学校低学年児童への体験と学びの提供・支援事業
助成額：300,000 円

事業の概要

「あかでみあ」は、7 歳（小学 1 年生）から 10 歳（小学 4 年生）までの子どもを対象に、学校とは異なる学びの場を提供した。子どもたちが主体となり、下記のようなテーマでプログラムを実施しました。

・居場所
・自然体験活動（里山体験／デイキャンプ）
・表現活動（陶芸／劇遊び）

多様な学びや遊びを通じて自己表現を育み、安心できる環境の中で社会性を身につけることを目指しました。

事業の成果

1. 当事者・利用者について

本助成事業のプログラムを通じて、小学校低学年部あかでみあを利用するこどもたちが、様々な体験学習に挑むことが出来た結果、彼らの自主性をはぐくむことができました。具体的な場面をあげると次のようなことがあります。

①活動終了時刻 15 分前に、片付けを行っていますが、年度初めは、大人のサポートを要していたのに対して、年度の終わりには自分たちで時間を確認しながら片づけが始められるようになりました。
②また、活動終了までの 10 分間でふり返りを行っていますが、司会進行・書記といった係に自ら立候補し主体的に話し合いや意見交換の場を運営できるようになりました。

2. 地域について

一方、地域の様々な主体とともに企画した仕事体験への参加が少なく、こどもたちと地域との交流を十分に促すことが出来ませんでした。

今後の課題

本助成により、週 1 日に限定した小学校低学年対象の不登校支援プログラムの企画・開発に挑戦することができました。その中で、小学生にとっては慣れ親しんだ生活圏を意識してプログラムを設計する必要性が明らかになりました。

プログラムを実施するフィールドの範囲に加え、そこの関わる地域ならびに地域住民との交流の度合いなど、こどもたちが想像・理解・処理できることを超えないような配慮が必要だったのではないかと考えられます。

今後も、専門家のスーパーバイズが受けられる環境を維持しながら、小学校低学年のこどもたちが無理なく参画・体験し、その中で経験や学びを深め、自信をつけられるような体験型プログラムを模索するようにしたいと考えています。

この事業を通じて良かったことのエピソード

自然体験では、火起こしや調理体験など、仲間と協力しながらさまざまな活動に取り組む中で、達成感を味わい、自信をつけていく子どもたちの姿がとても印象的です。

最初は人前に出ることや注目されることに苦手意識を持っていたお子さんも、今では終わりの会の司会に毎週立候補してくれるようになりました。

子どもたちが自己表現の大切さを学び、他者とのコミュニケーション力を高めることができました。

寄付者へのメッセージ

日頃より私たちの活動への温かいご支援に心より感謝申し上げます。

皆さまのご寄付により、今年度も子どもたちは安心できる居場所で多様な体験を通じて、自分らしさを発揮しながら成長することができました。今後も笑顔あふれる活動を続けてまいります。

デイキャンプ

（特活）神戸ロボットクラブ

団体概要：2020 年代に始まった小中学校でのプログラミング教育の授業についていけない、または経済的等の理由で参加できない子供たちへ、機会提供を行っている。

事業名：プログラミング学習
助成額：300,000 円

事業の概要

2020 年から小学校、翌年には中学校でのプログラミング教育の導入が始まった。学校教育の授業についていけない、または、逆にもっと進んで行いたが、学習塾など金銭的なハードルが高く、経済的に参加できない小・中学生、ほかに、登校拒否者、発達障害者の子供たちにもこのような機会が得られるように、ボランティア団体として学習会を行なっている。

特にプラグラミングといった馴染みのない学習に、より興味や実感が湧くように、小型のロボット、小型のドローンをプログラミングを使って操縦したり、ロボット等の組立て実習を行うことにより、科学分野にも興味がわくような学習活動を行っている。

事業の成果

法人化して約 2 年半になり、徐々に名前と内容が知れ渡ってきており、各 NPO 法人などの団体より、依頼が出てきている。しかし、まだ公的な団体からの依頼が少ないためか、知名度がないためか、一般の方々からの信頼がまだまだ薄く、当協会の主催のセミナーの参加者が少なく、設定している参加者の人員に満たないことが課題である。

しかし、今年度後半からは、公立小学校の課外授業の要請があり、小学生の保護者からの信頼性が増してきていると感じている。

また、子供だけではなく、各地の地域福祉センターにおいても、コンスタントに学習会を行っているため、シルバーの方々の参加も徐々に増加してきている。

今後の課題

学習者が増えた段階で、拠点を設けて定期的な学習会を行いたいと同時に、要請があれば進んで参加したい。

また神戸を中心に西宮や姫路まで、要請があれば学習会を行っているが、会員の交通費や、遠方の場合は一日の作業になってしまい会員の負担が増えるため、各所の団体と提携して交流し、お互いのノウハウを共有しながら、このような学習会を広げていきたいと考えている。

現在の会員数は 30 数名だが、メインになる講師の方は 10 名ぐらいであるため、今後は倍増を行い、それに付属する機器をそろえることが必要となってくる。この課題のためにも、是非ご支援をお願いしたい。

この事業を通じて良かったことのエピソード

神戸市垂水区の星陵台と、神戸市の中心から離れたところで行っているのは、この地区に住んでいる当協会の会員の方が非常に熱心な方で、誘致という表現が適切かどうかわからないが、2 年前より不定期に活動を行ってきたことによって、ファンやこの地区の協力者も増加し、2024 年度からほぼ定期的な学習会ができるようになったためである。

その上、子供たち、実質はそのご両親が熱心になったためか、さらにそのご両親の年代、つまり高齢者にも影響がいきわたりつつあり、今後は高齢者向きの学習会も検討できるようになってきた。

寄付者へのメッセージ

多くの助成金の対象は、子供達への食事の提供や居場所作りなどの支援が取り上げられることが多い中、当協会のような、子供たちの教育への支援に目を向けていただき、大変ありがたく思っています。

往々にして、贅沢な取り組みと思われがちですが、私たちは貧困からの脱出の一つは教育、そして将来の私たちのためになるのも教育だと思います。

今、目を輝かせて学ぶ子供達へのご支援をいただき誠にありがとうございました。

真ん中の方眼シートを目安にドローンの飛行プログラミングを組み、前後・左右・上下に飛行させて、そのプログラムの正確さを確認する学習会の様子。

（特活）アイリス

団体概要：後の人生にも大きな影響を与える介護離職をなくすことを目指し、地域や職場で支え合い、介護と仕事の両立と心のサポートを行っている。

事業名：“思いを伝えるななないろカード®”で「介活」をはじめよう！
助成額：200,000 円

事業の概要

私たちは、“介護離職をなくす”趣旨で活動をしています。介護への意識を高め情報を提供する為、介護者の交流会「りぼんカフェ」や「はじまる前に知っておきたい介護とお金のはなし講座」を通じ、アイリスが伊丹市とともに製作したエンディングカード「“想いを伝えるななないろカード®”」を使って、一緒に書いていく普及活動を行ってきました。

また、地域のつながりづくりとして、イベント「落語でハンドフラダンスでかいご」を開催し、“介活”の大切さを伝えました。

「想いを伝えるななないろカード」は、3 年前に製作しましたが、社会の情勢などの変化も踏まえて、製作メンバーと内容を見直し、さらに見やすく、書きやすくリニューアルもしました。

事業の成果

「“想いを伝えるななないろカード®”」が、介護当事者やこれから介護する側、される側にとって必要な情報を伝えるため、気軽に記入できるデザインと工夫があり、実際に手に取ってみた方が関心を持ち今後の人生を前向きに生きていくために考えていくきっかけづくりとなりました。

日曜日開催にこだわり、仕事を持っている人や学生の参加者が参加しやすい場所となりました。

交流会やイベントを通じて、地域の自治会や老人会にも周知されるようになり、講座の依頼が 2025 年度も来ています。

行政との協働事業の成功事例として評価され、2025 年度伊丹市協働参画推進委員を代表が拝命いたしました。伊丹市まちづくり条例を活用し、さらなる地域のつながり作りを進めていきます。

今後の課題

併設している訪問介護事業が多忙なため、りぼんカフェが思うように広報できず参加者が限定されてしまいました。

りぼんカフェの会場に予定していた、フリースペース YAMAUCHI が閉店し、会場探しに苦労することになりました。地域福祉センターいきいきプラザのボランティアルームで開催を継続できましたが、交通の利便性や参加しやすさ、予約のしやすさ等を考えると、今後の開催場所を考えていかなければならないと思います。

関心を持っていただいた方々は、想いを伝えるななないろカードを手に入れたら満足の感があり、書き上げるまでには至っていません。

書き方講座を通じて、最後まで書いていく、書き替えていく必要性を感じてもらえる工夫を考えていくことが今後の課題です。

この事業を通じて良かったことのエピソード

実際にりぼんカフェに参加して、お母様の介護に直面した方が、ななないろカードを書いていたことで、家族介護についてスムーズに不安なく相談でき、仕事も辞めずに続けられてとても助かったとのお声もいただきました。

寄付者へのメッセージ

この度は私たちの活動にご協力くださり、まことにありがとうございました。

「想いを伝えるななないろカード」は製作に携わっていただいたボランティアの皆さんや行政の方の経験と想いを詰めた 1 冊です。貴重な資金を無駄にしないように、これからも、地域を通じて、介活普及活動を続けてまいります。

今後とも応援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

りぼんカフェの様子
ご自身の介護経験をお話ししてくださる harumi さん

tree donut

団体概要：誰かと会い、不安や悩みを話したり聞いたりすることで、一人で、母子だけで、または家族だけで孤立をさせないことを目的に活動している。

事業名：ひきこもり支援を行うための基盤作り
～埋もれている当事者を見逃さないために～
助成額：200,000 円

事業の概要

現在、国では不登校・ひきこもり（8050 問題など）支援について提起されることが増えている。しかし、当団体が活動する猪名川町にはひきこもり支援が整備されておらず具体的な相談、支援が受けられる場所がほとんどなく、埋もれている当事者や家族がたくさんいると推測される。

そのためにまずは入り口となるべく相談窓口を月に１回専門職で開設（電話相談は随時対応）。また、相談だけではなく支援の受け皿として当事者が居場所やおしごと体験の場として利用できるようにカフェ（tree 丼 nut カフェ）を運営。当団体がオープンするカフェを通して当事者が自然と地域に溶け込み過ごせることを目的とした。当団体が活動をすることで今まで関心が無かった人たちにも少しでも考えてもらえるきっかけの場作りも目指している。

また、どこに相談すればいいか分からない、誰かと繋がりたいと考えている当事者や家族へ情報が届くようにリーフレットの設置や配布、回覧板による活動内容に周知を行ってきた。

事業の成果

【tree 丼 nut カフェ】

地域の方が食事をされることで不登校・ひきこもり支援をしていただいたことに繋がっている。

子育て世代の来客が多く、キッズスペースの設置、保育士のスタッフによる絵本読み聞かせ、ママ達のハンドメイド作品の販売、畑で作っている無農薬野菜（カフェの材料に使用）等も販売。

活動に興味を持ってくださった関係機関が来られることもあり、当団体が他機関と繋がりをもつきっかけの場にもなっている。

【広報活動】

活動紹介のリーフレット、毎月の活動内容をまとめたチラシ（tree donut 通信）を作成。協力店舗に設置を依頼し、各活動、地域のお祭りに出店した際に配布。

通信については自治会回覧板、個配をしていただき地域への周知に努めた。

通信は、毎月町内の掲示板へ掲示（負担を減らすため中断）。掲示板を見て当団体のことを知ってもらうきっかけに繋がった。

今後の課題

団体立ち上げから活動周知を目標に１年間活動してきたが、チラシやリーフレットを配布し名前を知ってもらう機会は増えたが活動に参加してもらう等のハードルの高さを感じている。

チラシやリーフレットからだけでは団体の雰囲気を知ってもらうことは難しいため、今後も配布を続けながら口コミなどで広がっていくような取り組みも始めたい。

活動メンバーが子育て中のママが中心となっている強みがあるが、季節性の流行り病などがあると子どもたちが体調を崩し活動を中止せざるをえなかったり、子どもたちが長期休みに入ると tree 丼 nut カフェにいたってはオープンも難しくなるため、活動メンバーを増やしていくことも今後の課題であると感じている。

この事業を通じて良かったことのエピソード

活動を通じ、同じように地域で様々な活動をされる団体や個人の方々、地域の方、事業所や関係機関の方と新たに知り合い繋がることができた。

その中で一緒に何かできることはないかと考えてみたり、それぞれの取り組みについて知ることで自分たちの活動を振り返ったり整理することができた。仲間が増え、地域の方から声をかけていただくなど自分たちが活動する上でモチベーションも上がり、地域や色んな人に支えられながら繋がる楽しさ、嬉しさを実感している。

寄付者へのメッセージ

活動団体を立ち上げたばかりで右も左も分からず、かかる費用は立ち上げメンバー2 人での自己負担でした。

やりたいことはあるのに活動周知するためのチラシもたくさん印刷することができませんでしたが、助成金をいただいたことで活動が大幅に広がり、たくさんの場所で周知をしていくことができました。

その結果、新たに活動に参加してくれる地域の方、当団体に興味を持ってくださる方を増やすことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

「tree 丼 nut カフェ」へ食事をしに来られた地域の方々の様子

（特活）あんだんて KOBE

団体概要：障がいの有無にかかわらない共生社会の構築に寄与し、障がいのある人たちが主役となって、音楽を通して生き生きと自己表現できる場作りを目的とした活動を実践。

事業名：知的障がい児者が取り組む地域参加型音楽フェスティバル
助成額：200,000 円

事業の概要

障がいの有無にかかわらず、誰もが心豊かに暮らせる共生社会の構築に寄与し、障がいのある人たちが主役となって、音楽を通して生き生きと自己表現できる場つくりを目的とした参加型コンサート「第 8 回はっぴい・みらくるフェスティバル」を開催した。

この事業では、当団体メンバー（主に知的障がいのある児童～成人 20 名）とスタッフ（12 名）が中心となって企画し、外部のさまざまな団体にも参加を募り、多様な人たちがみんなで楽しめる音楽イベントを実施した。

事業の成果

当会のメンバーはこれまでで最多の参加となり、フェスティバル当日までの活動過程において、一人ひとりが目的、役割をもち真剣に積極的に取り組む姿が見られた。

特に今回は「音楽とストーリー」というプログラムに向けて、台本をメンバー全員で考え、選曲も自分たちで行うなど、仲間との絆がさらに深まった。メンバー、スタッフ、そして保護者が一体となって当日を迎え、素晴らしいパフォーマンスを披露した。

外部団体や個人の参加においても、さまざまなジャンルの音楽、ダンス、手話などが披露され、来場者全員が参加する「大リズムアンサンブル」では、大いに盛り上がった。

「はぴみら」の出演者募集告知後は、今回も「楽しみにしていた」「前回に続き参加したい」等の声が寄せられ、このイベントが地域の方々に認知され、浸透しつつあることを感じられた。

今後の課題

1. 資金調達
   当フェスティバルは無料開催を継続しているため、人件費や運営費の資金が常に不足しています。これまで助成金に頼ってきましたが、持続可能な資金調達方法の確立が急務です。助成金申請と合わせてスポンサーシップや寄付の募集等を検討する必要があります。
2. 会場選定
   200 名程度を収容でき、音響設備が整った比較的大きな会場が必要ですが、料金を抑えられる市立系の会場は 1 年前からの抽選となり、予約が困難です。会場選定に毎回苦労しています。より多くの選択肢を確保するため、さまざまなリサーチが必要です。
3. 事務スタッフの確保
   フェスティバルの規模が大きいため、事務スタッフの確保も重要な課題です。ボランティアスタッフの募集や、効率的な運営体制の構築が求められます。
   スタッフの育成と継続的なサポート体制を整えることが課題です。

この事業を通じて良かったことのエピソード

・当会メンバー
舞台の上で自分の出番や立ち位置がわからなくなっているメンバーを、他のメンバーが誘導する。不安がっているメンバーを他のメンバーが励ます等メンバー間の思いやり、繋がりがさらに強まった。
たくさんの観客の前で臆することなく、伸び伸びと自己表現ができるようになった。

・外部出演者
「フィナーレ」ではステージに上がり、オープンスペースでダンスをするなど、メンバーとの交流場面も自然発生し、まさに多様な人たちが同じ空間で共に音楽を楽しむフェスティバルとなった

・来場者
「会場参加プログラム」では来場者に手作りシェーカーを配り、ステージ上のミュージシャンと会場がファシリテーターの誘導により、一体となった大リズムアンサンブルは迫力満点で来場者の皆さんにも好評だった。

寄付者へのメッセージ

このたびは皆様の温かいご支援のおかげで、「障がいのある人もない人もだれでも参加できる音楽フェスティバル～はっぴい・みらくるフェスティバル」を無事開催することができました。

当会メンバー、スタッフ、関係者一同心から感謝申し上げます。

第 8 回はっぴい・みらくるフェスティバル

がん哲学カフェ＠加古川

団体概要：がんと共に生きる方々やご家族に寄り添い、対話を通して不安や悩みを和らげ、共に生きる希望を見出す場を形成する活動を行っている。

事業名：がん哲学カフェ
助成額：50,000 円

事業の概要

がん哲学カフェは、順天堂大学医学部、樋野興夫教授（一般社団法人がん哲学外来理事長）によって 2008 年に提唱されました。がんと共に生きる方々やご家族に寄り添い、対話を通して不安や悩みを和らげ、共に生きる希望を見出す場として現在では全国約 180 箇所以上で開催されています。

2020 年 1 月、加古川で初めて「がん哲学カフェ＠加古川」を開催しました。現在「がん」を抱えておられる方、そのご家族、友人、そして「がん」という病気に真剣に向き合いたいと思っておられる方なら、どなたでも参加していただけるカフェです。がんの方の孤独や、家族の悩みを、対話を通して解消し、互いに支え合う場です。毎月 1 回、第 4 土曜日に開催しています。2025 年 1 月に 5 周年を迎えることができました。

事業の成果

がん哲学カフェ＠加古川は 5 周年を迎えています。

毎回誰が来られるかわからない、また申込みがあっても当日に体調不良などで休まれる方もおられる中、毎回参加者がいらしています。来られた方は、来たときよりも少し明るく、前向きな気持ちになって、少し軽やかに帰っていかれます。

チラシや、口コミでの案内の成果もあり、新しく来られる方もおられました。

3 年前に乳がんと診断され治療を始めて、落ち込んだ様子でこられた方がいます。がん哲学カフェに来るようになってから随分明るくなったものの、乳がん再発が先日わかりました。落ち込んでおられましたが、「がんカフェの存在があるので、前よりもショックが少ない、他の誰にも言うことができないけれど、ここで寄り添ってもらえる、大切な居場所です」と言われました。

病院や、薬局などにチラシを置いていることから、「みました」という声も聞かれ少し認知度が上がっているように感じます。

今後の課題

課題は、どのようにさらに多くの人に知っていただくかということです。ある程度プライバシーが守られる空間であり、かなり個人的でまた病気のことなどを話すため、SNS などの使用は今のところしていません。

さらに多くの人に知っていただくために、どのように宣伝、アピールするかを考えています。

病院や薬局などチラシを置いてもらうところを増やすことができたので、そこから少し反応がありました。

この事業を通じて良かったことのエピソード

少しでも参加者の方の助けになり、居場所になればと思って初めていますが、新しい出会いがあり、主催者、ボランティアにとっても、良い気づきの場所、自分自身を見つめ直すことができる場所になっています。

初めて来た人が続けて来られていたり、またこの参加されていた人ですでに亡くなった方もいますが、そのご家族などとつながることができていることがよかったです。

寄付者へのメッセージ

寄付をいただき、がん哲学カフェを継続し、みなさんに必要な場所を提供することができました。

兵庫県の加古川の近くに住んでおられ、これから人生をどう生きていこうか、生きることや死ぬことについて考えている方々にとって必要で大切な場所になっていると思います。ありがとうございます。

2025 年 1 月 25 日、がん哲学カフェ 5 周年
初期から参加している御夫婦にトランペットの演奏をしてもらいました。

ひめじ西里山サポート倶楽部

団体概要：里山農村地域の維持活性化のために、地域の魅力の発掘と発信を行うことにより、地域内外の人と人とがつながる切っ掛けと、その関係づくりを行っている。

事業名：竹資源を活用した地域おこし
～太市の筍を守ろう～
助成額：100,000 円

事業の概要

1　目的

過疎化が進む太市の実情を広く周知するために、竹林整備体験や子ども食堂を開催し、地域内外から人々を呼び込むとともに、竹あかりを製作し、地域内外の既存イベントで展示することで、地域間で交流する風土を生み出すことを目的とした事業を展開しました。

2　実施内容

⑴　竹林整備体験の開催
⑵　子ども食堂で竹資源を活用した調理や食事の提供（流しそうめん、竹飯ごう、竹棒パンづくり）
⑶　竹あかりの展示及び竹クラフトの開催

事業の成果

1　放置竹林の抑制と再整備

放置竹林を１箇所借り受けし整備することができました。そして、竹林整備体験では、姫路市外からも多く参加していただき、収穫体験にリピートしてくれる関係人口の創出につながっています。また、障害者福祉事業所からの参加者が多く、今後の事業の新たな方向性として分析できました。

2　竹あかりの認知

姫路市での竹あかり展示は珍しく、会場では多くの方が写真や SNS 等で発信していただけました。また、クラフト体験では、子どもの参加だけでなく外国人にも好評であり、今後、観光地での開催を検討する足掛かりとなりました。

3　関係人口の創出

本団体の活動が、姫路市主催の事業と協働することとなり、高校生が竹林整備や竹炭づくりを体験しました。今後も探求学習に太市の竹林をフィールドとすることも検討され、成果を果たせました。

今後の課題

1　ボランティアスタッフの確保

竹林整備体験や子ども食堂を活用したことで、多くの方々に参加していただくとともに、リピートしてくれる人も増えてきたことは、大きな成果として喜ばしいことですが、開催の機会を増やすとなると、スタッフメンバーを増強する必要があります。

2　費用対効果の高い竹資源利活用

竹あかりの展示だけでなく、竹資源の利活用を収益としなければ、活動の継続やスタッフの確保に苦慮することとなります。

この事業を通じて良かったことのエピソード

1　地域住民の思いに寄り添うことを忘れてはならない

本事業を進める上で、地元住民への協力に苦慮しました。なかには、私たちの取り組みを否定する方もいたなか、賛同してくれた地域住民が後押しをしてくれて、事業を進めることができました。

そして、地域住民と協働した事業を進めたことで、地域住民の信頼関係も構築でき、さらに、行政とも協働する運びにつながったことは、今回の取り組みがなければ実現できていません。

2　地域内外の人と若者とのつながり

太市は、閉鎖的で地域外の方が足を運ぶ場所はほとんどありません。そこで、竹林を体験場所として活用したところ、参加者とは、笑顔で楽しく過ごし「また、来たい」と言ってくれたことに、この事業の方向性は間違っていないと思えました。

寄付者へのメッセージ

寄付金を頂いたことを感謝申し上げます。ただ、寄付金をできる限り効果的に活用しなければ申し訳ない思いと本当にうまくいくのか不安でプレッシャーも感じていました。

そして、事業を進めるなか、たくさんの人と出会い笑顔あふれる時間を参加者と共に過ごせたことは、寄付して頂いた方々のおかげです。私たちの団体は、設立して２年目ですが、活動の幅を広げることができ感謝しております。

障害者の子どもたちが竹林整備を体験

初めて使う電動工具で竹を切ったり、みんなで助け合って竹を運ぶ姿を見て、大人たちが感激したことを忘れません。

ゆずりは明石

団体概要：がん患者とその家族を支え、その人の直面する社会的問題の解決を援助するために、がん患者とその家族の交流の場、療養に必要な知識等の提供などの活動を行う。

事業名：がん患者その家族の交流の場の拡大とケア帽子寄付事業「ボランティア広報の拡大」
助成額：50,000 円

事業の実施内容

「ゆずりは明石」は、がん患者とその家族の会員及び支援者相互のボランティアで運営される自助グループです。

コロナ感染防止を考慮し活動場所が変わったことと、ケア帽子の需要が増え在庫数が減ったことから、今年度は「ケア帽子づくりサロン」のボランティア広報の拡大に力を入れて以下のとおり活動しました。

① がん患者と家族が、自由に話し合える場所である「がん患者サロン」を 11 回開催。
②「ケア帽子づくりサロン」は、ウイズあかし活動スペースを会場にてイベント企画で 8 回実施。
それ以外の場所 3 ヶ所に出張サロンを計 14 回開催、自宅で作成し届けてくれる方もある。
③ リーフレットを更新し配架、ホームページを新設。

事業の成果

【1】ゆずりはミニサロン：　参加者延べ 40 人　運営延べ 32 人　2024 年度新規ピアサポーター4 名
【2】ケア帽子づくり：　製作数：310 枚　県立がんセンターがん相談支援センターなどで必要な方に寄贈した数　220 枚
【3】新しいつながりが出来た。活動をわかりやすく伝える資料や動画作成ができた。

- サロンとして、おしゃべりをしながら楽しく活動に参加していることが人を呼んでいる。
- オープンなイベント形式の場所での開催は、気軽にのぞいてみる方もあった。
- ホームページで知ったと当事者の方が、自分の為に作りたいと参加されたり、知人が必要としているのでケア帽子がほしいと来られて、ケア帽子の提供の場にもなっている。
- 作り手さんが教え合ったり、おしゃべりしたりの楽しい時間になっている。
- 「ケア帽子の作り方」「ケア帽子の特徴」各種のチラシなどの資料や動画ができた。
- 「ケア帽子づくりの全工程紹介」のパワーポイントができた。

今後の課題

〇がん患者、その家族の会員及び支援者相互のボランティアで運営される自助グループとの視点で活動を行う。
〇二つのサロンの定期的な継続。

■「ケア帽子づくりサロン」の課題
①材料の調達、保管。定期開催時の準備(ミシンの運搬など)の負担軽減
②作り手さんが増える事、作り手さんから教える人ができてきて、工夫や知恵も生まれるようなサロンの場になってほしい
③ケア帽子が必要な方に渡せるだけの数が確保、届けられる活動の継続。寄付されるタオルが減少し市販のタオルを購入して製作するため、コストの増大の懸念がある。
④広報の工夫　：「ケア帽子の作り方」や「ケア帽子の特徴」の資料、ボランティア募集のチラシ、動画「ケア帽子の作り方」、「ケア帽子の全過程」を紹介したパワーポイントなどをどう活用するか
⑤県立がんセンターで懸命に治療に向き合っている方に選んでいただけるような品質の確保と維持を図る
■「がん患者サロン」の課題
①ピアサポーターのボランティア募集と研修の実施

この事業を通じて良かったことのエピソード

〇 参加者の感想

がん患者は死に直面することにより、生を死の視点から捉えられることができるようになります。生まれてくることは自分の意志ではないが、いかに生き、生を終えるかは全て自分の意志の範囲内にあることが実感として理解できるようになります。

父母や妻への感謝、悩むものへの共感、他者からの自分に対するやさしさ等、がんが体内にあることが判ったことによって意識できるようになりました。

残された人生の時間、人のためになることをやろう、他人に迷惑をかけないようにしよう、優しくしてくれる妻をはじめ隣人に感謝しようといつも意識できるようになりました。明日死んでも悔いのないよう今日やるべきことをやろう。

ゆずりは明石の活動メンバーは、がんという病魔に苦しむ人の為に自らの人生の時間を割き、共感を寄せることの出来る方々であり、私が死を意識するときでも親切に言葉を返してくれます。

会報の製作にも待っていてくれる読者であるがん患者のことを想い編集しています。決して世に誇るほどの成果ではありませんが、一人のがん患者の為に役に立っているという満足感でいっぱいです。

〇 ケア帽子をもらった人の感想

がんセンターで配布された方々へアンケート実施中（集約中：種類のタイプがあるためアンケートの回答が遅れているため）。

寄付者へのメッセージ

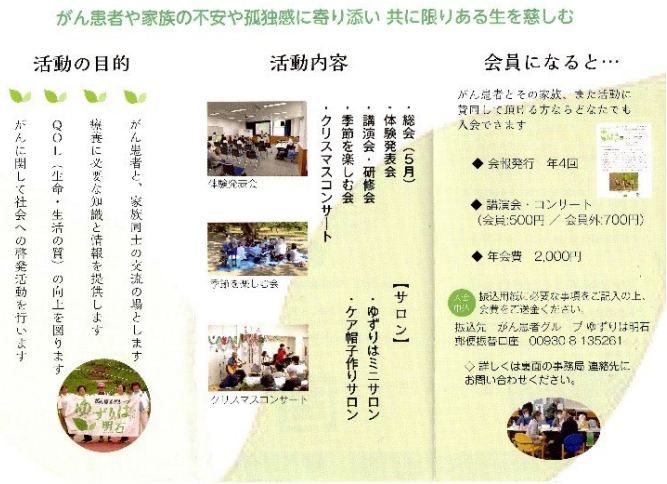
会は、2018 年度から新体制になり、コロナ感染症による活動（制限、休止、活動拠点の変更など）の変化の中で、2024 年度は設立 20 周年の年でした。2024 年度貴団体の助成金申請をさせていただいたおかげで、会の目的、運営、

今後の展望と団体継続について考える機会になりました。この度はご支援いただきありがとうございました。

がん治療技術や臨床技術は日進月歩で進歩しています。嘗ては死の病であったがんも生存期間が長くなり又治療の情報公開も進み、患者の選択も重要な意味を持つようになりました。

この様な環境の変化に対応するため患者会も一層のレベルアップが求められ、情報の収集、他の活動団体との交流、医療者などの講演会の開催など多岐にわたる活動が必要となります。

活動拠点の維持、移動経費の発生など避けて通れない課題も抱えています。会費の大幅な負担増を避けるためにも寄付者からの支援は心強いものがあります。



神戸レインボーフェスタ実行委員会

団体概要：講演活動やイベントなどを通してセクシュアル・マイノリティの存在に対する社会の認知を広め、差別偏見のない社会を創出することを目的とし活動している。

事業名：神戸レインボーフェスタ 2024
助成額：500,000 円

事業の概要

昨今の社会においては性の多様性についての情報の認知が広がっている。しかし、LGBT への正しい知識が周知されていないことや、誤解や誤った情報があることで性的少数者への偏見や差別、誹謗中傷がある。

それを改善すべく当団体は、講演活動やイベントなどを通してセクシュアル・マイノリティの存在に対する正しい認識を社会に広め、自らの「性」について考えるきっかけを作り、生きづらいと感じている方が、少しでも前を向いて「生きよう」と思える社会、さらにはその他のマイノリティも含め差別偏見のない社会を創出するため、活動を行っている。

その一環として、神戸市をはじめとして全国から誰でも参加可能なイベント、自らの存在価値を認識できる場を提供することが必要と考え、2023 年 5 月に神戸で初となる『神戸レインボーフェスタ 2023』を開催。2024 年度以降も継続開催が必要と判断し、2 年目となる『神戸レインボーフェスタ 2024』を開催した。

事業の成果

ステージ出演・ブース出展含め LGBTQ＋当事者、ALLY（LGBT を支援する者）、世代を問わず性の多様性を理解する者、理解しようとする者、その他（障害福祉や多国籍を含む）マイノリティ当事者や支援者以外の一般の地域住民や市民、行政・学校教育に携わる関係者などの参加も多く見られた。特に今年度よりキッズエリア（塗り絵やフェイスペインティング体験）を設けるなどしたことにより、親子の参加も多く見受けられた。

さらに、東京など遠方からの参加もあり、全国への発信につながった。また、性別・性的指向・セクシュアリティ・国籍は問わず、その全てに安心して集える場所を提供することができ、参加者自らが存在価値を認識できる空間となった。

そこには多文化国籍の方々や障害福祉に関わる当事者や支援者も含め、あらゆる人びとの多様性を尊重し、『国際都市神戸』の名にふさわしくなるよう社会の発展に向けて寄与することができたと考える。

今後の課題

本年度ではステージに関して、予算の関係からステージ設営から音響において専門業者に依頼することができず、ボランティアを募り自らで行った。そのため不備やステージでの音響トラブルなどが発生し、即座に対応することができなかった。そのため今後は専門的な技術スタッフの依頼が必要と考える。

また、継続的な開催ができるよう自主運営が必須となる。そのため運営費確保のため、数多くの企業協賛を募る必要がある。

この事業を通じて良かったことのエピソード

ウエディングファッションショーでは当事者による本人が望む衣装を着用し、ステージ出演を行った。ステージ開演時には立ち見を含む数百人の観覧者・各社メディア記者などの関係者が集っていた。ショーの途中やフィナーレでは会場からの歓声や大きな拍手が巻き起こっていた。その中には涙される参加者の姿があった。

さらには本イベント終了時の SNS ではウエディングファッションショーの写真を投稿されている方が多く見られた。その中には LGBT 当事者以外の方から「こんなにも愛し合っている二人が日本では結婚できないことが悲しい…」との声があった。

当イベントでのボランティア参加者からも「今回のイベント参加で自分らしく生きようと決めた…」との前向きな発言も見受けられた。そのことから本イベントの目的でもある、生きづらいと感じている方が、少しでも前を向いて「生きよう」と思える世の中にこの兵庫県から変えていきたいと願う気持ちが反映されるイベント開催となった。

寄付者へのメッセージ

2023 年 5 月神戸で初となる、性の多様性を祝福するイベント『神戸レインボーフェスタ 2023』は自費での開催となりました。本年度、継続開催を志していた中、当助成の公募を知り、諦めの境地で財団へ相談したところ、申請できることを知りました。

結果、採択をいただき開催することができました。今回助成対象になっていなければ、継続開催ができなかったかもしれません。このような機会をいただけたこと寄付者の皆様へ心から感謝申し上げます。

イベント終了後、ステージにて集合写真

（特活）兵庫県障害者タンデムサイクリング協会

団体概要：一人では自転車に乗ることのできない障害者に対し二人乗り専用のタンデム自転車でサイクリングの楽しさを提供し、地域社会に対しタンデム自転車の普及活動を行う。

事業名：兵庫県でタンデムサイクリングを楽しむ会
助成額：350,000 円

事業の概要

毎年、武庫川河川敷サイクリングロードを使い、障害者とともにタンデムサイクリングを楽しむ会を行っていますが、移動困難な視覚障害をはじめとする障害者は、武庫川まで出向くことができない方も多いです。

新ひょうご・みんなで支え合い基金で応援していただき、ポートアイランドという交通便利な場所で、遠方からの参加が多い素晴らしいタンデムサイクリング大会を開催することができました。姫路、三田、丹波篠山、神戸の皆様にご参加いただき、本当に喜んでくださいました。

また、神戸学院大学の学生にボランティアとして協力いただきました。障害者スポーツを初めて経験する学生は、戸惑うことも多かったようですが、若さと運動神経の良さから、強力なメンバーとなって盛り上げていただきました。

事業の成果

タンデムサイクリングを楽しむ会 in KOBE をポートアイランドのしおさい公園で開催できました。

新ひょうご・みんなで支え合い基金の応援でタンデムサイクリング車の運搬費用を捻出できたおかげです。遠方の方にもご参加いただけ楽しかったという感想もあり、開催してよかったと思いました。

当初、三田でサイクリングと考えていましたが、三宮のほうが他の地域からも集いやすいという意見があり、変更しました。三宮なら行くことができる方もいて、地域を考えると良かったと思いました。

特に初めてタンデムに乗る方が来られたのは大きな成果と考えています。

今後の課題

例年のタンデムサイクリング大会は武庫川河川敷サイクリングロードで行っていますが、今後も兵庫県の他の地域でも開催したいと思いました。

そのためには、スタッフをふやし、資金も集め、慌てず、急がず、無事故で楽しくが課題です。

特に資金をどうするかは、大きな難問と思っています。

障害者の参加者を募集と同時に、ボランティアスタッフの募集を行い、NPO 法人兵庫県障害者タンデムサイクリング協会を盛り上げて行きたいと思いました。

この事業を通じて良かったことのエピソード

大学生ボランティアは、ボランティアというより、最初は授業をうけに来ているようでしたが、時間とともに楽しみ、障害者を共にペダルを漕ぎ、協力しあってサイクリングをすることの面白さを理解していただけたと感じました。

障害者参加者は、三宮の海風を感じてのサイクリング、大学の学食でランチ、1 日大学生になったような気分もあじわえてとても愉快なサイクリングでした。また来年もここでサイクリングがしたいと感想をお聞きしました。

三宮は、多くの方が集いやすい良い場所で、かつ神戸学院大学学生の伸び伸びとした精神がすばらしく、障害者参加者に楽しんでいただけたと思います。タンデムサイクリングでパートナーを決める大きな要素である体重は、大学生にとって非常に重要な個人情報とわかりほほえましく感じました。

寄付者へのメッセージ

新ひょうご・みんなで支え合い基金のおかげで、ポートアイランド、武庫川河川敷サイクリング大会、宝塚市役所までのサイクリングでもサイクリング大会を開催することができました。楽しかったです。開催にあたり、新しいいろいろな方にお会いし、ご意見もお聞きし、的外れなことも話し、恥もかきましたが楽しかったです。

本当に楽しかった！参加者もスタッフも楽しかった！ありがとうございました。

神戸学院大学の教室で、集合写真を撮りました。
皆様いい笑顔です。

（特活）あしたあさって

団体概要：　多くの地域住民自らが地域の課題解決に関われるよう、市民活動を行う団体や個人を支援しながらともに活動し、ともに歩み、仲間として喜びを分かち合える中間支援でありたいと活動をしている。

事業名：地域と人を結ぶ一歩先のコミュニティ
～旧水尾町公民館利活用
助成額：350,000 円

事業の概要

空き家となっていた旧水尾町公民館を 2023 年、芳田地区と（一社）まち・ヒト・未来創造研究所が、公民館の利活用のため、田舎お試し移住や、農村体験の宿泊施設としての活用と地域交流施設にする事業をすすめ、当法人と連携し多様な関わりや、地域のにぎわいづくりの場として活用することになった。

地域活動の支援として、人が集う場所があり、話ができる場所、話を聞いてくれる場所があるだけで安心感があり、暮らしはより安全になると考えている。

事業の成果

旧水尾町公民館ができたことで、市民活動をする個人や団体が集い、自分たちで繋がりを作りながら施設を利用されるようになった。

地域の中に誰でも参加できる場所、誰でもきっかけをつくれる場所をつくることができ、利用される方々が大切な場所として地域に溶け込みながら活動されている。

当法人にとっても場ができたことがとても大きく、新たな出会いがたくさんあり、1 年を通してそのありがたさや、自分たちの足りないところも知ることができた。

今後の課題

大きな飛躍を考えていないので、身の丈にあった場所で身の丈にあった活動ができるように継続していきたい。

目まぐるしく情勢が変化していくので、計画はとても難しいが、柔軟に対応し軌道修正しながらすすめていきたい。

この事業を通じて良かったことのエピソード

とても小さな法人に場ができたことが本当に大きく、色んな方々に支えていただきました。

自分たちが迷うことも多いのですが、活動される人たちが「ここがいい」「楽しい」と言ってくださることが活動の励みになります。その声がとても嬉しく、不便なこともるのですが、不便なところは自分たちで工夫しながら使ってくださっていることに感謝しています。活動の PR が上手くないのですが、本当に楽しい日々を過ごさせていただいております。

寄付者へのメッセージ

応援していただきありがとうございました。自分たちのできる範囲ということが大切だと思いました。私たちにとても大きな一歩に力を与えていただきました。

小さな活動ですが、自分たちの最大限をちゃんと理解し、地域の皆さんと一緒に、この活動を続けていきたいと思います。

活動する人たちみんなで考えて企画された「レモネードスタンドのオータムマルシェ」。地域の皆さんも立ち寄られ、お弁当を食べたりお茶を飲んだりして交流しながら過ごされました。

公益財団法人
ひょうごコミュニティ財団

2024 年度助成事業実施報告

2025 年 8 月 31 日発行

〒650-0022 神戸市中央区元町通 6-7-9 秋毎ビル 3 階

電話：078-380-3400 FAX：078-367-3337

hyogo@communityfund.jp

https://hyogo.communityfund.jp/